新女界

第四巻第參號要目

△自利と他愛
●聖き生活と其方法
●玩具の心理及其教育
●自覺の意義を貴らしめよ
△身に泌た親の躾
●嚴格なりし我家風
●懷かしき思出
△雨の日
●友の許に
●廢物利用展覽會
△子女教育に對する母務
●我姓名と宿所
●初孫を持ちし感
●天國のはがき
△選ばれたる民

安井哲子
谷津直秀
高島平三郎
某夫人
宮川經輝
元良よね子
野口せい子
野菊
海老名みや
安井哲子
元良よね子
みね
海老名彈正

東京新人社發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

頭髪用 千代田香油

社交場裡の花と稱せらるゝ奥さんも孃さんも亦紳士も芳しき香の此香油に限るこの高評なり

定價 特大 七十錢 大 卅五錢
中 廿五錢 小 十七錢

東京日本橋馬喰町
山岸三之助
電浪 三七九三
振替 二〇五〇〇

スワン石鹸日本一手販賣
大阪市堺筋鹽町二丁目
山岸出張店

スワン純白浮石鹸

入浴用にも化粧用にも安心して使へる純良な石鹸

英國ポルトサンライト市製造所
リバー兄弟商會

新女界第四卷第二號目次

（二月一日發行）

◉社　說

◎自利と他愛　安井哲子

◉教　壇

◎選ばれたる民　海老名彈正

◉想　苑

◎聖き生活と其方法　谷津直秀
◎玩具の心理と其教育　高島平三郎
◎嚴格なりし我家風　宮川經輝
◎懷かしき思出　元良よね子

◉雜　俎

◎自覺の意義を貴からしめよ　海老名みや
◎姉より妹へ　KH子
◎雨の日　野口せい子
◎友の許に　野菊

◉家　庭

◎子女教育に對する母の務　海老名みや
◎玩具撰擇の注意　高島氏述
◎廢物利用展覽會

◉隨　感

◎我が姓名と宿所　安井哲子
◎初孫を持ちし感　元良よね子
◎天國のはがき　みね
▲其他いろ〳〵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新人第拾參卷第參號目次

（三月一日發行）（金拾五錢）

●社　說

基督教の根本義を發揚せよ　主筆

●教　壇

永遠の靈潮　海老名彈正

●苑　想

世界に於ける基督教の地位　高木壬太郎

三位一體の信仰　富永德麿

所謂自然主義と基督教（下）　寺澤精一

郷土詩人グスターフ、フレンセンの基督觀（一）　大塚尙

●文　藝

アリヨーシヤ　トルストイ

サンタ、マリヤ　藤　郞

●雜　俎

南洋寫生紀行　有田四郎

支那に於ける基督教　馬寬容

街頭近事　門外漢

●聖書講義

馬可傳　海老名彈正

●評　論

早稻田文學推讃の辭　森脇白夜

國家と宗教の新問題　藤田快堂

●時　評

▲小山氏の久遠の基督教を讀む▲國民自覺の疑義▲開書應答を讀む▲文部省對文藝委員會問題▲其他

●彙　報

內務省開催三教會合問題顛末

△新刊紹介△編輯たより

「かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり

毎號添附 形紙附録あり 流行せる複形八種

見本御希望の節御請求あらばなしくれ

三月號 婦女界

一冊金十五錢 郵税一錢五厘 六冊金九十錢 十二冊一圓七十五錢

▲現代女子の一方面…文學博士 姉崎正治

◉女を知れ 文學博士 上田敏

▲本居宣長の母……佐々木博士

▲南半球に於ける婦人……井上博士

▲卒業生を送る辭……東京各女學校長數十名

◉虚榮心と名譽心…鳩山春子

▲三輪田眞佐子刀自…記者

▲しもやけの藥と下熱劑 調以 雄

▲肉體と精神の修養 醫學士 大瀬

◎小説 犬の死と失踪 野上臼川

◎小説「男の兒」……國木田治子

◎悲歌一曲……吉岡千萬樹

◎短詩形の趣味 沼波瓊音

▲羽二重とはどんな物…伊達道太郎

▲お節句と雛人形……笹川文學士

▲子供衣服仕立方の注意 小澤れい子

▲我校の廢物利用展覽會 宮田脩

▲流行の春肴 記者

▲英詩 若月學士

▲日常作法 笹木幸子

彼岸料理

▲舞臺で見た馬 安藤蘆沼

▲三月の園藝 妙華園主

◉主婦のつとめ＝一週間の日課…コーツ夫人

◉臺所日用品の買入方と使ひ方…塚間つね子

東京 神田 同文館

第四卷第參號

自利と他愛

安井哲子

日々の生活に疲れ果てた者には、自然に心の「ゆとり」がなくなつて、唯現在の自己のみを考へるやうになるのは、實に止を得ぬ事であります。早朝停留場に電車を待つ多くの人々、或は官省に、或は會社に、或は學校に或は又工場に、何れも皆其日の仕事を爲さうとして、各其目的地に向つて急いで居るのでありますが、電車が來て留るや否や、我先にと他人を押し除け、突き除け、乘り込まうとする有樣は、實に生存競爭の烈しい狀態を明に實現して居る者で、老人や子供、又は吾々女子の樣に弱く力無い者は、いつでも後に取殘されて四臺も五臺も待たねば乘る事が出來ぬのであります。或時は「やつと」の思ひで乘り込みましたが、電車はひた走りに走つて或場所で「留めて下さい」と頼んでも、其儘行過ぎてしまひました。次の停留場でこそはと、此處でやつ

と降してもらひましたが、車掌は或距離を戻らねばならぬ私の不便に同情するどころか、「もつと早くいはぬから」と反對に小言まで云はれました。併し心を靜めて考へて見れば彼等も亦日々の生活に疲れ果てゝ他人を思ふ余裕もないのであらうと同情されて夫れ程腹も立たず、唯世の人の心が次第に荒び行く不愉快さを密に嘆ずるのみでありました。若之れが他の文明國のやうに、乘客を叮嚀に取扱ひ、吾々も亦互に禮義ある態度で乘つて居りましたならば、如何に總ての人が愉快に感ずるでありませう。

　併しながら種々雜多の乘込人に對して、かゝる事を望むのは或は無理かも知れません。唯教育ある者、社會に相當の位置ある人々互の間に於ては、自己に對する興味の外に、幾分他人を思ふ「やさしさ」が心の中に存して居りたい者であります。然るに私共も此忙しい世の中に、唯機械の樣に働いて居りますと心の「ゆとり」が全く失せて奥ゆかしい「やさしい」所が失なはれてしまひます。そこで母親さへ其愛子に對して、時には冷淡な物言ひをしたり、教師でさへも其生徒に對して、不親切な取扱をする樣になります。

　親が子供を育て、教師が生徒を導くのは、實に我を忘れてする貴い仕事であります。然るに心の「うるほひ」がなくなりますと、罪もない幼稚な子供を用捨もなく打擲して吾が憤怒情を滿足させやうとする彼の下流社會の婦人の如くなる事があり、又「若い者は之れで困る」と常に彼等の缺點のみを責め立てて、少しの暖みも「やさしさ」をも彼等に加へぬ同情なき教師のやうになる事もありませう。

　凡そ婦人として最美くしく見えるのは、愛の表情に富んだ人であります。天性それ程美しくない人でも、慈悲に富んだ婦人は、實に愛すべき表情を有する者で、誰でも之れに接近したいと望むやうになります。世の中が文明に進むに從ひ、婦人の中にも深く專門の學を究めて殆ど男子に讓らぬ人も出來ませうし、又歐米一部の婦人の如く男子と共に政治を語

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

得る程の人々も出來ませう。併し婦人の美しさは愛の化身となつた場合に現るゝ者であると思ひます。啻に其容貌が天使の如くなるのみならず、無言にして普く其感化を周圍に及ぼす所の偉大なる勢力を現はす者であります。然も本人自身が之れを意識せぬ所に、一層の慕はしさがあります。彼小公子が無邪氣な愛を以て終に頑固な老祖父の心を和らげた様に吾々の心にも少しく他人を思ふ余地さへあれば、求めざるに多くの友を得て實に幸福な人となり得るでありませう。

然るに吾々は心の「やさしさ」を缺くために、何事にも自巳本位となつてしまふのは實に不愉快な事であります。折々往來で見る所の喧嘩の如きも其多くは二の自利的精神の衝突で、一寸突き當つたといつては立腹し、一寸足を踏んだといつては言ひ爭ひをするといふ様に、小さな事にまでも自巳を主張する有様は、他の文明國人が一寸他人の身體に觸れても互に「失禮」と謝する「やさしさ」に比する時には、一種の感なきを得ぬのであります。そこで此風は自然教育ある社會にまでも影響して、時としては教師は年甲斐もなく生徒の喧嘩相手となり、互に其曲直を論じ終には學校騷動となつて、醜を社會に現はすのは屢新聞紙上で見る所でありますが、英國人の如く紳士淑女を以て自ら處する者には、かゝる出來事は見得べからざる事であります。

些細な權利を主張して自他共に不愉快なる爭をなすよりも、先づ之れを他人に讓つて感謝された方が互のため如何に幸福でありませう。此に於て初めて自他共に圓滿な心情が養はるゝのであります。彼新島先生が學生を戒めねばならぬ場合には、先御自身の不德を其學生の前に悲しまれたといふ事でありますが、之れが卽偉い教育家として、先生が人々に敬愛せられ給ふ所以であると考へます。「何故教師の命に背くか」と叱るのは吾々教師の常でありますけれども、「教師に從順ならざる生徒を作つたのは自身の足らざる故である」と悔ゆる人は實に稀れでありま

す。最も親切で最も堪忍強くあるべき筈の父母教師にして、若し其權威を惡用し、未成熟、無分別時代の相手を叱責矯正する事が其の本務であるやうに考へますならば、感化とか敎化とかいふ美くしい精神は全く消滅してしまひます。

自分がこんなに不成績であるのは親の敎育が良くない爲めであると子供が云ひ、吾が品行の修まらぬのは先生の薫陶が惡いためであると生徒がいふ樣では、社會の秩序も道德も成り立ちません、けれども之れと反對に親自身、敎師自身が其子弟に對して、吾親切の足らざる故に、彼等の敎育に缺くる所があるのであると考ふる事は、實に眞面目な且「やさしい」心情で、かゝる人々の下に育つた子供には、實際不良の結果は無いのであります。

要するに社會一般、生活の爲に疲勞を感じて居りますと、自巳の瞬間以外には考を向ける余裕がなくなり、從つて美くしく「やさしい」心情は次第に涸れて、自然に他人の事に思ひ及ばぬ樣になるか、或は大小となく唯自巳の權利や利益の擴張に力めて、終には他人を突き除けても我一人進まんとする樣な態度が何事にでも現はれて來るやうになります。其惡影響は終に子弟の敎育に從事する者にまで及んで、親切な情が次第に薄らぎ、之れと同時に年の若い人人にも亦長者に對する敬愛の念が減じてゆきますので、終には親子師弟の權利爭ひまで演ぜらるゝに至るのであります。かゝる殺風景な生活を一變して、愉快な生活をなさうとするには、各自心に幾分の余裕を作り、忙しい中にも他人に對してせめては笑顔でも與へる樣になりたい者であります。

哲人敎へて曰く、己れの立てるところを深く掘れ、其處には必ず泉あらむ。自らの心の中に求むる所あれ、世は即ち汝のものならんさ。然れども悲しいかな多くの人は己れの立てる所を知らず。何處に自らの心を求むべきやも覺らざる也。(樗牛)

教壇

選ばれたる民

海老名彈正

一

耶蘇の時代は誠に珍らしい時代であつて、此の世界の最大なる舞臺を極小さく縮めて見せたかの觀があります。耶蘇があの時代にお生れになつた事が、深い意味あることで、一面から觀ると、世界は恰も其終りかの如く、他の一面から觀ると亦其始めかの如く考へられました。

斯く認めたものはパウロのみではありませぬ、基督者も非基督者も皆等しく然か感じたのであります。所がこの時恰も耶蘇はお生れになつたので、基督者はこの降誕を以て世の終ると同時に又その始であると感じたのであります。故に初代の基督者は耶蘇の降誕を以て世界の紀元となし、それより以前を舊世界と呼び、それより以後を新世界と稱へる樣になつたのは深い意味あることゝ思ひます。これは實に深い實驗に基いたものと云つてよい。個人に於ても同じ樣に感ぜらるる時があります、即ち洗禮を受けるまでが古い人間であつて、受けて以後が新らしい人間となると云ふのであります。故に洗禮は過去生活の末期にして、而して新らしい高い生活の始めであります。これを大にしていへば、基督教の起源は新世界の原始にして、舊世界の最後と云ふ事になるのであります。

この新世界の始め舊世界の終りに耶蘇の誕生を見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たのは中々面白い。耶蘇の誕生は偶然ではありませぬ遠い〳〵昔からの下地があります。耶蘇の降誕は遠い以前よりぼんやさり薄く認められて居つたが、遂に長い〳〵年月の後ちに事實となつて現はれました、こゝに神の大なる御企を認めざるを得ない、確に深い意味があります。其意味は耶蘇に依つて最もよくわかりました。舊世界は全く耶蘇基督を目當にして進んで來たものであり、新世界は基督を源泉として流れ始めたのであります。過去より觀るときは基督は彷彿として見えた理想であつて、人々はその理想を實現せんとあこがれて居つた。此理想がナザレの耶蘇に於て完成するに及んでは、基督は新なる模範となつて萬世を照らし給ふ。こゝに深い選びの意味がある。而して耶蘇はその選びを受けた人であります。

耶蘇は何のために選ばれ給ふたか。之蓋し地上に於ける神の大經綸を施さん爲めであつて、卽ち神の國を建てんが爲めであります。神の國は神の子の國なるが故にその標準たる原型は完全なる神の子でなければなりませぬ。耶蘇は多くの豫言者、多くの聖賢の中より特に拔き出されて、神の民の標準となり給ひました、此選びに就て科學硏究の立場より論ずれば世界の發達進歩の爲には適者生存と云ふ法則があります。世界生存上不適當なものはどうしても倒れなければならぬ。そして尤も適當したもの、完全に近いもののみが生き殘ると云ふ事であります。この世界に於ける發達は一に此の法則に依るのであるが、しかし人類の發達は他の自然界の發達とは稍その有樣を異にするのであつて、人類に於ての優勝劣敗は意味が深長であります。人類界の進化は頗る故意的であつて、自然的でない。人間の好む通りに動物や植物などを變化さする事が出來ます。一の標準を立てゝ自分の意志のまに〳〵進化させる事が出來ます。鳥獸でも草木でも或る範圍に於て人の意志通りに進化さすることが出來ます。而して人類界の進化には神の意志が歴然として見えます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二

第一世紀の人々がナザレの耶蘇を見て、彼れは神に選ばれた人なるが故に、彼れと同情同感のもののみが生殘つて世を嗣ぐことが出來、之に反しその聖心に合はぬ者は亡ぶると考へたのであります。故に耶蘇が神の選びを受けられたやうに、彼を信ずるものもこれ天國建設の爲に神の選びを受けたものと自覺しました。之れには異論もありませうが、兎に角初代の基督者が基督と共に神國を建てる爲に、神に選ばれたと云ふ自覺に入つたのは誠に偉いと云はねばなりませぬ。基督教徒が勝利を得るの日は、世界の人種が一變して了ふと云ふのであります。人間世界は一面より見れば實に恐ろしい滅亡であり、嚴格なる審判が行はれつゝあります。實例を擧ぐれば澤山ある。我が北海道のアイヌ人の如きも、漸々無なりつゝありますが、優勝劣敗の理を以て見れば、倒底もう永く續いて其種族の存在を保つことは出來ますまい。又同樣にオーストラリアの土人もその數は頻りに減少して來ましたから五十年立たずして亡ぶるだらうと思ひます、アフリカに於ても同樣に悲慘なる現象が見えます。かつてエヂンボロに博覽會が開かれた時、一群のアフリカ土人が居りましたが、私はそれを見て何とも云へぬ悲哀の感に打たれました。その人種は人間と云ふよりも、むしろ猿に近いと云ふ方が適當かも知れぬ。到底滅亡するより外はない、これは零落したる人種であるか、又は原始的の人間かも知れぬ。何れにしてもこの人種は滅亡の運命を有して居ります。

又アメリカ土人の如きも、よしや政府が敎育を授けたり事業を與へたりして保護するとも、到底駄目であります、白人と競爭は出來ない、亡がるより他に道はない。かくの如く劣等な不適當の人種は續々滅亡して行つて、優等人種が世界を征服しつゝあります。そこで選ばれたる民と云ふ事について更に深く考へねばならぬ。もし歐洲人が我らは選ばれたる

民なりと云へば、傲慢不遜の樣に聞ゆれども、一概に不都合であるとは云へませぬ。何故ならば實際この地球上廣く殖民してゐるものは何れの民族であらうか、アイヌやオーストラリア人などはその故國に於て既に絶滅に垂んとしてゐるのに、これに引かへて何百年の昔から遠近寒暑を嫌はず、それからそれへと殖民して行くものは歐洲人であります、彼等に選民の自覺あるは强ちに咎められない。

三

精神界に於て之を論ずるときは、如何になるだらうか。耶蘇に似て生活するものが生き、これに逆ふものが亡ぶとは古人の考へた所でありますか、實際これを千九百年の歷史に徵して見るに、殆んど誤謬なきやうであります。まだ〳〵信望の途中を進行しては居りますが、その信望は一世紀は一世紀より實現し來りつゝあります。この基督に在る神選は民族又は人種に限られては居らぬ、全世界のあらゆる民

族よりあらゆる人種より神はその聖旨に適するものを選び給ふのであります。故に一視同仁、普く世界の人々に福音は傳へらるゝのであります。

神は全人類よりその選民を召して、天國を地上に建設し給ふのであります。神の救は世界人類を一人一人づゝ、殘る所なく天國に入るといふのではありませぬ。人類中より善良なるものを召して世界を暗黑より救ひ出して光明の世界とすることであります。偉い仕事であります。我々がこの選びの中に居ると云ふ自覺は實に得難い恩賜であります、けれども我が同胞は果して皆この自覺に入ることが出來やうか六千萬の日本人はこと〴〵く基督者になるものとは思はれない。こゝに選ばれたる者と選ばれざる者との差別が出て來ねばならぬ。この選ばれたるものは果して日本民族の精髓たるべき性格あるであらうか若しこの選ばれたる自覺ある者の性格が日本民族の最も善良なるそれであつて、この性格が戰勝者たるを得て獨りクリスチヤンが日本に於ての最後の勝利

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

者たるのみならず、日本民族そのものが神の選民たる資格ある譯となります。吾々が信仰の範圍は甚だ廣いのであります。今後百年、二百年又五百年も經過したならば如何なる日本民族の性格が卓然として顯揚して來るのであらうか、吾々は豫じめ之を云ことが出來ませう。今後幾十年又は幾百年を經て基督と同情同感の者が日本を支配するやうにならば、日本民族の性格は基督のそれとなるのであります。もしさうなつて來ないならば、我々の信仰は失敗であります。我々現代に於て多くの同胞兄弟に苦しめられ辱しめらるる事は意に介しないけれども、五百年後に於ても尚侮辱せられねばならぬならば、實に斷腸の思を禁せざるを得ませぬ。何となれば基督の人格は、我國民性には生長しないといふ譯になるからであります。吾々は獨りだから安心立命して居つても、若し國民としてその生存の價値なきものとでもならば、實に哀むべき限りであります。これに反してこの精神この人格が標準となつて我々の如きものが増殖し、この人格に似ないものが亡び行くならば民族その者が改善せられるのであつて、この意味によれば、選ばれたるものとなるのは、我々一人〱の善き信仰を得て安心すると云ふに止まらず、日本民族中に新らしい種子を播くと云ふ事に成り且我々の人格が日本の將來を支配すると云ふわけで、結局我々の信仰によつて日本民族が生きるといふ譯になります。吾々はこの責任に想ひ到り、未だ嘗て戰慄せざることはありませぬ。

四

斯う觀ると、自畫自贊の樣なれども、其處までの確信が無くては、態々萬難を排して基督教を信ずる筈はない。そうでなければ民族の上に於て我々の信仰は抑も何等の價値ないのであります。唯だ一個人の精神的慰安に外ならない。我々は唯己れ一個の爲に活きて居るのでない、子孫の爲に民族の爲に、又人種の爲に生きて居るが故に、吾々の選びはその關

係する所廣く且遠い、一旦思こゝに至れば、我々の責任亦重なる哉。これに對する神の恩惠亦大なる哉と思はざるを得ない。小事ではあるが、酒を嗜まぬ事が一個人の利害に關するのであらば、强健なる頭腦を有する子孫を作らんが爲であります、强健なる頭腦にあらざれば、基督の健全なる信徒にはなれない。健全なる頭腦にして始めて神靈の器具たるを得ます。神の選びを受くる者は子孫に强健なる頭腦を與ふるものでなければなりませぬ。これと同樣に神に選ばれたるものは智能の働き鋭敏なるものでなければならぬ。その義氣人情は高明にして溫和ならざるべからず、又その意志に至りては勇健にし、能く活動し、善に就くに强く、惡を去るに强からざるべからず。かゝる人格は一朝にして發揮すべからず實に數代又は數十代を經過せねばなりませぬ。神の選びは一朝にして實現するものではありませぬ。この民族改善の大經綸を完成せんが爲に、吾々は神に選ばれたのであつて、こゝに一大新紀元を作るのであります。吾々傳時代を送つて、こゝに新時代を作る元祖とならねばなりませぬ。將來の大日本は此信念の中に胚胎して居ります。

想苑

聖き生活の意義と其方法

谷津直秀

宗教の目的は一言にして之を云へば、聖い生活をすると云ふことにある、然らば聖い生活とは何ぞや聖い生活とは聖い身體に聖い靈魂を宿すことである或哲學者は人間は靈的存在物であつて、肉體など云ふものは左程大事なものでないと云ひ、又或哲學者は之と反對に、人間は物質的の存在物であつて、何も靈魂など云ふやうなものはない、此肉體が卽ち我であると云つてをる。併しながら吾等の實驗から云へば吾等には身體があると同時に、靈魂がある。例へば肉體を器械に例ふれば自分と云ふものは器械其ものではない。器械を使用する技師若くは製造者である。併して其關係は極めて密接であつて、個々別々なものでなく、肉體の健康不健康は心靈に影響し心靈の聖潔なると否とは又身體に影響を及ぼすのである。そこで此聖き生活と云ふことは、聖き身體に關係するのである。古人は「身體髮膚之を父母に受く、敢て毀傷せざるは孝の初め也」と云つてをるが我等クリスチヤンは此父母を神と云ふ字にかへて見れば此意味が誠に面白い。身體は之を神より賜はつたものである、之を汚すのは神に對して相濟まぬことである。身體を汚すと云ふことは、同時に我が衷なる靈をも汚すことになるのである。キリストは惡

い考へを持つたのは、惡い行ひをしたのと同じであると云ひ、盜心を起したものは盜んだのと同じであると云ひ玉ふた。又パウロも神の宮卽ち身體をけがすものは神其人を亡ぼすと云つて居る。かくの如く聖い心靈と、聖ひ身體とは密接な關係が存するのである。

世人は健康なる身體と云ふことは筋肉のつよい、丈夫なることのみを云ふのであるが健康とは必ずしも筋肉の強いことではない。若しそうであれば、力士とか運動家は理想的の人物でなければならぬ。然し大抵は其の反對である。本當の健康とは靈の云ふことを聞く身體、靈の命ずる所に從ふ身體を云ふのである。ロコモートリツセ、アタクシーと云ふ病氣は、誠に不思議な病氣で、自分が立ちたいと思ふのに立てず、立つまいと思つてをるのにヒョイと立ち上がる、身體が精神の命令に從はぬ病氣である。これは其の極端な一例であるが、大抵の人は殆んど皆心の命令に身體が從はぬ人々である。之では眞の健

康とは云へない。先頃も新聞に一人の學生が身體を机に縛り付て居つて勉強したとかで、大變賞賛しあつたが誠につまらぬ話で、帶で縛りつけなければ勉强が出來ぬとは困つたものである。故に健康體とはよく精神の云ふことを聞く身體で、健全なる人とは、神に服從するの人である。

身體を健全にすることは大に努めなければならぬ人類は恰も彼の野生の動物が家畜となつて退化したやうに、其の身體の如き著しく退化してをる。それは文明になればなる程そうである。尤も腦髓は非常に發達してをるが、外の部分はそれと反對に退歩してをる。西洋人などはチョット靴足袋をぬけば風を引く位である。これは甚だ大事なことで、吾等は大に注意して自然に對する抵抗力を養はねばならぬが更に夫れよりも大事なことは靈魂を健全にすることである。身體の健康をはかると云ふことも其の眞の目的は、靈の健全をはかり、健全なる聖き精神を以て健康なる肉體の主たらしめんためである。靈は主

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にして肉體は從である。
心靈の健康を增すの方法は第一に靈を汚す印象を避けることである。吾等の精神が、吾等の五管を通じて來る外界の事物によりて種々なる影響を受くるは、吾等の屢々實驗し又見聞する所である。或人は子供の時、犬におどかされた事があつた爲に生涯犬を恐れ犬を見れば急に神經を惡くすると云ひ或盲人は子供の時に見た繪畫の色が大きくなつてからも目の先さにありありと殘つてをると云ふ話である。子供の時にうけた印象は後ちのちまでのこるものである。吾等は見るもの聞くもの悉く靈の汚れとなるものは之を避けねばならぬ。廣やかな家にはいつて良い空氣を呼吸する人はミジメな家に住つて居る貧民などと比して、夫れ丈けでも心靈に好影響するのである。或町で下水を奇麗にし街區を清潔にしたる爲めに其處に住んで居る住民が道德的によくなつたと云ふ話があるが、これは慥かに道理がある。其點に於て室の額面など、繪畫其の物より受くる印象は勿論であるが、單に室內の美をます上からも有效である、敎會の裝飾なども同樣で、室內の裝置不行屆にして殺風景なのは心靈の修養上から見ても決してほめたものではない。衣服なども亦た大に心と關係する、服裝を正しくすると云ふとは、やがて心を正しくすることになるのである、凡てこの耳と云ひ、眼と云ひ、常に外界と接觸して居る所のものは深く注意をしなければならぬ。
又た必要もない智識を追ひ求むると云ふことも、靈の健康を增す爲めにさくべきことである。或人は何でも澤山の智識を取得せねばならぬと思つて、成るべく多くの書を讀み、成るべく多くの學說を聞くと云ふ風があるが、これは間違つた考へで、何でもかでも知る必要はない。吾等には全くかけはなれた不必要なものがある、不必要な智識はなるべくさけねばならぬ。古人も生兵法は大敗の本と云ひ、又普通の人が醫書なんど讀んだために、無暗な事をして取返しのつかぬ事をしたり。或は病氣でもないのに

病氣と思つて遂に夫れが本當の病氣になつたりする事などは有りがちの事である。曩頃も海老名先生の宅に一人の學生が來て、「なぜ宇宙は五十三元素から成り立つて居りますか」と云ふ問題を出したそうであるが、之等は餘計な智識のために苦しめられたものである。吾等は常に靈に關する書籍をよみ、又話を聞いて精神の健全をはからねばならぬ。吾等は又會話を愼まねばならぬ。元來會話はコンヴアース卽ち共にするのである人格と人格との交通である。佛國の或る皮肉家が、言語は心中の思を隱蔽する爲めのものであると云つたが、これは一の詭辨で、言語は實に人の思想感情を云ひ表はすもの、換言すれば人格の發表である。故に我等は常に不潔なる言語を語らず、又聞かず、常にその言語が品性の看板であることを思ひて、之に注意せねばならぬ。同時に靈的洞察を以て凡てのものに就て靈的意義を見出さねばならぬ。何事も靈的に考へることが必要である同じ事柄、同じ景色に對しても見方によつて非常に違ふものである。キリストは野の百合花を見て、其中に神の妙なる恩惠を見出し、ソロモンの榮華の極みにも其榮は此花に及ばざりきと云ひ、少さき雀を見ては、一錢に售るべき雀も天の父の御許なくば其の一羽だに地にをちずと宣ひ、又た小兒を見ては天國にあるものは斯くの如きものなりと仰せられ、事事に靈的の見解を附して語られたのは吾等の學ぶべきことである。私の學びましたコロムビヤ大學の門を入ると正面に「地に語れ、地は汝に敎えん」と記してある。之れは約百記の中の言語であるが、味ふべき言語である。

吾等は又常に人に對しても、社會に對しても、其光明なる方面を見て暗黑面を見ないやうにせねばならぬ。他の暗黑面を見、缺點を知て見たいのは、一種の人情のやうであるが、吾等は堅く之れを愼しまねばならぬ。オースカー、ワイルドであつたと思ふが「暗黑面を見ずして、光明の方面を見る人は幸なり」と云つてをる之れは確かに眞理である。好んで

暗黒面を見る人は、其人にそれを好むやうな傾向あるを示すもので、斯る人は交友としても決して靈性上益するところは尠くないのである。飲食は身體を養ふためのなくてならぬものであるが、然し、飲食に對する觀念はクリスチャンの間などでは、少し間違つてをつて、信者は拙い質素なものを食ふべしとし、嗜い御馳走を食ふのは罪であるかのやうに思ふものがないでもない。これは中世紀の修道院時代の誤れる考へであつて、我等は各自の生活に應じてなるべく御馳走をたべて、神の宮殿たる此の身體を健全にすることを努めねばならぬ。そうしてパウロが云つた樣に、我等は飲むにも喰ふにも神の榮光をあらわさねばならぬ。之を要するに靈性を修養して、それに身體が從ふやうに、直に靈性の命令に服從するやうにと云ふことを心掛けねばならぬ。これ宗教的生活の要諦であつて、宗教の目的も一に茲にあると思はざるを得ない。（談話筆記　文責記者にあり。緊）

玩具の心理及び教育

高島平三郎

△おもちゃの由來

今日は私の第三女の誕生日でありまして、恰度今頃生れた時間であります。ソコで私の宅では姉達が玩具を飾つて、妹の誕生を祝つて居りますが、恰も其の時間に私がこゝで玩具に就てお話をするのは誠に喜ばしく感ずる次第である。さて玩具の由來をたづぬれば、中々古くから存在してをつたもので、歷史時代は勿論、有史以前四千年五千年の昔に溯つても其跡痕を見るのである。例令ば彼の埃及のピラミツトの中や、バビロン、アッシリヤ邊の墓の中から

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出る色々なる器物の中に玩具がある。夫れを調べて見ると、毫も今日行はるゝ玩具と違て居らぬ。夫れは其筈である、幾千年前の子供も、子供は卽ちに子供で精神狀態は違はぬ。如何に文明に進んだとて生れて來て子供は同じであるからである。ソコで此等の比較硏究は實に興味ある問題であるが、今日は之をやめて專ら右の題意に基き、其心理的及び敎育上の方面からお話しやうと思ふ。

玩具とは何かと云へば、玩具は卽ち「手遊び」で、英語のプレーシング又はトーイ、獨逸語のスピールチョイル又はタンドで、これは何れも同じ意味合である。此等の言葉から察すれば、昔の人は玩具に餘り重きを置かなかつたと云ふことが分る。以上は皆役にたゝぬ、或は少さい、無駄なもの、物眞似などと云ふ意味がある。獨逸語のタンドなどは贅澤品と云ふ意味である。日本でも「おもちや」とは少さなもの、我が自由になるもの、慰みものなどと云ふ意味があつて、誰のおもちやになつてる、あの人は誰のおもちやだと云へば、決してよい意味ではない。之等を以て見ても、昔の人は玩具を極めて輕く見て居つたに違いない。然るに玩具は甚だ大事なものであつて決して等閑にするべき問題ではない。

△何故小供は玩具を好むか

一體小供が玩具を好むのは何故であるか、云ふまでもなく之れは遊ぶと云ふことゝ密接なる關係がある。遊ぶと云ふことは、これは自然の衝動であつて敎へると云ふこともなく、又經驗もなしに起るので色々な本能が遊びとして働くのである。第一最も早く起る所のものは身體自然の運動であつて、手を動かすとか、足をのばすとか、或は這ふとか起つとか極く簡單なものであるが、それが小供には實に愉快に且つ興味を感ぜらるゝのであつて、卽ち一の遊びである。これは生後約一二年間の事であるが、次には外界の影響を受けて遊び事をやる時代が來る。卽ち模倣であつて大人のやる事や、年上の小供のやる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事を真似て色々なことをやる。或はまゝごとであるとか、姉様ごつこであるとか、戦ごつこであるとか種々様々な事をするのである。之れは三歳から十歳まで位であるが、之等は實に社會の雛形であつて、彼等は何でも目に觸れ耳に聞く所のものを模倣するので、大人や年長者のする事は、鋭敏に彼等を刺撃し、すぐ之を遊びと云ふ行為の上に現はすのであるされば我等は時々意外な事を、子供の遊戯に於て見出すのである。今日の様に議會で擲り合ひなどをすれば、小供は議會ごつこなんて何か議論のまねをして仕舞に擲り合ふ真似などせぬかも限らぬ。更らに生長すれば此の社會の模擬と、運動の衝動とが一層發達して、爰に純粋の遊戯を組織するのである。即ちベースボールとかテニスとか、ボートレースの様なものもで、之れは最早幼年時代即ち玩具必要の時代を過ぎ去つたものであつて、此時代の遊戯に用ゆる器具は、玩具ではなく、遊具又は運動具と云ふべきである。

△幼年期の玩具

第一の時代には玩具は極く簡單なものであつて生後一二年の間は之を三期に分つことを得るのであるが、其第一期は「おしやぶり」見たやうなものである之をしやぶるのは決して食ふ積りではない。元來人間の唇は非常に觸覺の鋭いものであつて、之をしやぶるのは即ち觸覺を働かすのである。此頃は象牙で之を製るのであるが、之は誠によい。之れは萬國共通のもので、何處の國でもある文明國の嬰兒は飛行機を見て樂しむと云ふ譯のものでない。此の時代は受身である。じつとして見たり、聴いたりするのである。然るに第二期に至れば違ふ此頃は手足が充分に活動するのであるから、自分で持つものを要する即ち風車とか、ゴム人形とか、旗とか、笛、でんでん太鼓、ラッパの様なものである。第三期になると夫れが尚發達して、自分で飾つて見て喜ぶものを好むのである。即犬であるとか鳥であるとか其の他動物などである。之等の玩具は近頃はゴムを以て製ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れてあるが、之れは觸覺を養ふ點から云ふも、極くよい事で、成る丈けゴム製を與ふるがよい。そして此時代に注意すべきことは決して復雜な物を與へぬことである。彼等は理解力もなく想像力もないのであるから、成るべく簡單なものに限るのである。更に進んで眞似事の時代になると滊車であるとか、荷車であるとか、車であるとか、こう云ふ風なものを喜ぶのである。元來兒童は實に動くものを好む本能がある、だから以上の運輸器械が玩具に應用されてをるのは夥しいもので、近頃は飛行機の玩具の流行などすばらしいものである。そして此時期は前にも云ふ通り、女兒ならば姉樣ごつこ、お客樣ごつこなどをやつて、スツカリ本當のものゝ氣で、何から何まで本當の眞似をするのである。

△なぜ玩具は有益か

さて斯く簡單な玩具が、段々と復雜になり、眞似事をするにも初めは極く簡單であるが、次第〳〵に復雜なものを使ふのである。之れは皆自然の要求であつて小供には段々と彼等の要求に應じて玩具を與へてやらねど、本當のものを持ち出すので、子供は聞きわけがないから、之を與ふる必要があるのである。斯の如く小供は知らず〳〵の間に之を要求するのであるが、實は夫れが非常に有益なる事となるのである。こゝが私共の深く研究しつゝある所であるまづ第一に感覺に影響するものは、觸覺が「おしやぶり」「ゴム人形類」。視覺、風車、風船、旗等。聽覺、から〳〵笛、ラッパ太皷等。筋肉は、玉、毬、ゴム人形等であるが、之等は皆五管の活動を發達させる、玩具を弄ぶことによりて子供は眼を働かし耳を働かし、又筋肉の働きを發達させる。それは小供等が玩具に依つて初めて外物を知ると云ふわけでなく唯だ色があれば色に應じて自然に感覺は働き、視覺がだん〳〵養はれ、音があれば音に應じて聽覺が自然に養はれるのである。野蠻人等は色に關する感覺は極めて簡單であつて、文明國人に比すれば極めて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

幼稚である、玩具を與へぬとても何かで養へることは養へるが、しかし不完全である。故に同じ毬にしても、ゴム毬の方が在來のものよりはよい。ゴム毬は反撥力が強いから、自然觸覺の方に影響するものが多い。そうして色色な彩色をしてをるのなぞは視覺の上からもよいのである。しかし良いからと云つて澤山やると云ふことはよくない。却て精神を亂し、

不適當なものを與へると同じく、非常に小供に害をなすのであるから、年齢、性質の別又は身心發達の程度に應じて、親たるものは深く注意せねばならぬ。

よく良家の家庭なぞで、子供がうまれると可愛さの余り、何でもかまはず玩具を與へ又先方のことは何も考へず、唯珍しければよいことにして玩具を贈りますが、之は思ふべきことである。

△玩具の心理

第二に智力に關係するものは、重ね卵、秘密箱、はめ繪、繪合せ、組立人形、積み木、姉様、與次郎兵衛、小坊主、器械仕掛の人形類等である。元來人間は外界の羈絆をはなれて自分で働きをする傾向を持て居るものである。殊に小供は仲々想像力の豐富なものであつて、玩具によりて更に一層想像力を養い、記憶力を養ふことは實に有効である。考を練ること、思考力をつよめる事のためには、與次郎兵衛とか組立人形とか、はめ繪、繪合せなどは知らず知らずの間に非常に影響する。秘密箱などは小兒は其の不思議を見て一生懸命に考へる、そうして其結果之を見出し、世の中の不思議も決して偶然に出來るものでないと云ふ思想を養ふのである。第三には感情及び意志と玩具の關係であるが、斯の如く初は感覺の世界に逍遙して居るのであるが、次には想像記憶、思考と段々に進歩し、更に進んでは感情及び意志の上にも影響を及ぼし、知らず〳〵の間に玩具によりて優美なる感情、剛健なる意志を養ふことが出來る。先に申しました姉様人形、關東に行はるる「括り猿」など如何に女兒に優美の精神を涵養しつつあるかは、彼等の之を玩ぶ態度を見ても明かである、動物の玩具なども唯だ面白い一方でない、動物に對する愛護の精神同情の心を養成してをるのである。座蒲團を丸めて背負つて居る女兒を見よ、彼等には現實と空想との差が分らぬ。故に座蒲團を眞の赤ん坊と思つて年上の人の眞似をして覺束ない子守謠を歌い、又之に乳を與ふる眞似をするのである。其間に實に美はしき感情が養はれつゝある。東北では「ほこ」と云つて、こんな簡單な物（七八寸長さの丸棒の一端が球狀をなし、夫れに顔を繪けるもの）を子供が抱いて遊んで、これを非常に可愛がつて居る。これは世界共通で、獨逸でも恰度之と同じ品が行はれてをる、彼等は之を人格視して、少しも疑はぬのである。

然るに更に進んで來ると、この通り（チヤンと服

装せる在來の人形と、西洋人形）實際に近いものでなければ滿足せぬ。そうして之れに對する愛情も更に緻密であつて、或は名を命け性格を授け、階級をつけ之は母様、之は姉様、之は女中などと區別して母は母、姉様は姉様、女中は女中として取扱ふ。其の心情は迚も男子の想像の及ぶ所でない。こう云ふ風であるから、其の國の人形を見れば、之は大抵何歳位の子供が用ゆるものと云ふとが分るのである。

△玩具と教育（一）

又玩具を以て實行をし、整頓をする習慣を養ふことが出來る。遊びざかりの子供であつてしつとりとして、玩具を手にも取らないで眺めてばかり居るのは決して本當でない。何か身體に異狀があるのである。世の親達がかう云ふことを心得ず、宅の兒は誠に大人しいとか、玩具なども大事にして少しもコワさないと云つて、玩具を與へても、そうしてはいかん、チヤンとして見てをるんだなど丶叱るのを見ますが之れは實に間違つた話で、折角丈夫な子供を羸弱にし、發達すべき小兒を低能兒とするのである。故に親たるものはよく其邊を注意して、餘り活潑にして、がさつな性質の兒にはこんな玩具（ピンポンに用ゐるラケットの如きものに五つの穴ありて、其上に五個の彩色せる玉をおき、片手に持ちながら各定まれる穴の上に入れる裝置）がよい。これは玉を定つた場所に入れるには餘程心を落ちつけてやらぬといかん。斯様なものを用ゆれば自然靜淑な辛抱づよい性質を養ふことが出來る。又反對に餘り因循な、ぐづ／＼した性質のものには、思ひ切つてやらねばならぬやうなものを撰ぶがよい。例令ば羽子突の如き仲々活潑にやらねば出來ない。其他男なれば凧、獨樂等いろ／＼あるが、親は成算があつて之等を與へてやると、小供は面白いのでやるのが遂に自分の氣質を改良するに至るのである。斯様な譯で玩具は教育上非常に大切なる地位を占むるものであつて、玩具の良否は健全なる次代の國民の興隆如何に關係す

るのであるから、私共は研究會を開いて聊か之がために盡す所あらんとして居るのである。

△玩具と敎育（二）

最後に一言したいのは洋行歸りの人達が、西洋の玩具の精巧にして立派なるに引替へ、日本のものが粗惡であるとの批評である。之は一應尤もであつて其點から云へば非常に劣つてをる、此機關車（長壹尺大の實物を示して）の如きは蒸氣の力でピストンが動いて本當のもの丶樣に運轉するのであるが。代價も四十五圓である。（其他器械の力にて麥酒をついで飮むさまをする人形、梯子を本當の人のやうに一段づ丶登る消防夫梯車に乘つて走るエスキモー等を示さる。）然し之は考へものである。元來子供は自分で動かし、自分で廻はして喜ぶので、こう云ふ風な器械的なものは決して大人が思ふ程喜ばないのである。子供には極く簡單なもので、自分がそれを使つて、飛ばしたり、廻はしたりする所に無上の興味があるのであつて、又た玩具の効能も實にそこにあるので、精巧緻密なものは寧ろよくないのである。昔から行はる丶「竹とんぼ」など實に簡單なものであるが、これ今日行はる丶飛行機の原理を應用したものであつて、仲々考へてをる。小供はこんなものを好むのである。故に日本の玩具は無論改良すべき點はあるが、決して西洋諸國に劣つて居ると云つて捨てたものでない。寧ろ玩具としては優つてをる所もあるのである。之を要するに小供は玩具を以て、自分の思ふが儘に之を持ち扱つて、自分の好む通りにする間に自分の力を自覺して行くので、そこに又意味があるのであるから親はそこを利用して小供の體育智育、及び品性上の敎育をせねばならぬ。品性の修養など云ふことは深呼吸や冷水浴などで一朝一夕に出來るものでない。小供の自分から親が注意して忍耐力のなきものには忍耐づよくなるやうに、性質の鈍いものには穎敏になるやうに、因循なるものには活潑になるやうに、放膽なるものには靜淑になるや

うに、各々其の性格を淘冶せねばならぬ。故に玩具の問題は決して忽諸にすべき事でない。西洋なとでは仲々熱心な人があつて深く之を研究し之に關する立派な著書などもある位であるが、我國ではまだ一向無頓着である、小供を持てる親達は大に注意する所ありて一つの玩具を買ふにも我兒の性質年齢其他いろ〳〵な方面から考へて之を有効にし、健全なる第二の國民を養成せられんことを希望してやまない次第である。まだいろ〳〵お話し申したいのでありますが、最早時間もありませんし、又宅では三女の誕生祝で子供等が待ちかねて居りますから、之れで御免を蒙ります。（講話筆記　文責記者にあり。）

◉基督教にまねた神前結婚

日本でも西洋の例に倣ひ、神前に於て結婚の式を擧げるのは、近來流行して來た。これは誠に喜ばしい現象であらうと思ふ。私の方の大神宮で結婚の式を擧げるに至つたのは、明治三十四年からである。此慣例の起りは何に原因するかと云ふに、其以前から宮社内に下田歌子女史やその他朝野貴夫人方の發企で禮法講習會が開催せられてゐたのである。然るに當時其禮法の講習から自然結婚式も行ふことになり、それが漸次他に傳はり、神前で結婚式を擧げるのは誠に善い事であると、誰云ふとなく四方に廣まつて今日のやうに流行するやうになつたのである。

結婚式の等級は特別一等、特別二等、特別三等、松號、竹號、梅號の六種に分かれ、其式の實費は一等五十圓、二等三十五圓、三等二十五圓、松號二十圓、竹號十五圓、梅號十二圓である。これ以外に入費は一厘も不要である、結婚式日には左の祭詞を神前に於て媒介者が兩人に代つて讀む事になつてゐる。

明治何年何月何日を吉日と定め、婚姻の式を行ふとして齋ひまつる大神等の御前に於て、何某と何某娘某と夫婦の契を結び堅むるは、尊き神慮に依れることとよろこびまつり、今より後千代に八千代に相睦び相親しみ、かりそめにも夫婦の道に違ふことなく、互に補翼して家政を整へ、子孫の繁榮を計るべきことを誓ひ奉る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

身に泌た親の躾

(諸名家幼時の懐舊談)

嚴格なりし家風

宮川經輝

▲生い立ち

私の郷里は熊本から十三里もある阿蘇山の麓宮地と云ふ處で、家は代々阿蘇神社の神主であつた。何でも、記録の傳ふる所によれば神武天皇の第二の皇子健磐達尊の後裔だと云ふことであるが、豊臣氏の時代から三百年間、此地に來て代々神官をつとめて居るのは慥かなる事實である。父は國學をやつた人で、和歌なども多少やつたのであるが、實に頑固で極めて嚴格な人で、私などは一聲叱られれば縮み上つたものである。母は豊後國岡藩の士族の娘で、私は母が三十八九歳の時の子で、五人目に生れた末子であつたから、一番可愛がられた方であつたけれど併し母とても仲々嚴しい所があつて、無暗に甘やかす方ではなかつたやうに思ふ。何しろ我家風は極めて嚴格であると云ふ事が幼い頭に泌み込んでをつた例へば極めて朧ろげな記憶で、何故に、何時縛られたのであるか、其理由や年頃などは少しも覺えて居らぬが、母から簞笥の鐶に縛りつけられて、半日苦

しんだ事を覺えてをる。これは私の最も幼い時の記憶のやうであるが、何でも何か不都合な事をして體罰を加へられたことであらうと考へらるゝ。又五ッ六ッ位の時であつたと思ふ。寺小屋に通ひ始めた時私が駄々を捏ねて、行かないと云つて意地を張つた時、頻りに母に叱られ、夫れでも拗ねたのであつたが、母が物干竿で追つかけて來る、聽かなければ擲られそうなので詮方なく逃げながら、寺小屋まで行つた事などもある。之等の事から考へても、母は唯だ譯もなく無暗に愛したのでなかつたと思ふ。

▲我心を研け

七歳位の時であつたであらう、之も年の頃は確と記憶せぬが、しかし寺小屋に通つて居る時代の事である。或時母が私に向つて「位とか祿とか云ふものは外から附いて來たものであつて、又何時か離れるものであるから、實に頼みにならぬものであるが、學問智識は内から生えて來るもので、何人も之を取り去ることの出來ぬものである。人は人物を研くことが大事である、即ち心を研くことが大切である」と斯う云ふた。母が斯く教へられた事に就ては深い譯がある、抑も母の父と云ふ人は醫師であつたが、母の幼き頃は岡藩の奉行であつて、ある土木事業を起したゝめに、百姓一揆がおこり、其不首尾により遂に藩を出て、私の方に來て醫者となつたもので、幼心ながら富貴榮達と云ふことの誠にはかなきものであると云ふことが深く沁みこんだものと見える。そこで母は功名利達、地位爵祿は浮べる雲の如きものであるから、人はまづ其身に何物も奪ふべからざる所ろの價値をつけねばならぬと、教へられたものと見える。

母のこの教訓は私のしみなき幼な心に深い印象を與へた。私は幼な心にも學問をせねばならぬ、人物を研かねばならぬと思ひ、年の段々長ずるに從つてあけてもくれても之れのみを念頭に置いて、萬事此方針で進んで來た様に思ふ。六歳の時から漢學を習

ひに行きたいと、如何程父に願つても一向聽容れられず、九歳になつた春或朝父の寢床に入つて、是非にと願つて、遂に父に束脩を包んで貰つて、本島四郎と云ふ山崎闇齋の流を汲んだ學者の下に行つて、漢籍を習つた。そして一生懸命に勉强したので、大變先生の御氣に入り、養子に呉れと云はれて弱つた事もあつた。兎に角、私が今日まで此の世の地位とか爵祿とか云ふことを外にして、専ら我心靈の修養につとめ、以て聊か精神界のために盡してをるのは母の此の教訓が與つて力あると云はねばならぬ。

▲活學をせよ

これは少しく後の事である。私が塾には入つて居つて、休みになつたのじ、家に歸つた。久しぶりに歸省したので、我家珍らしさ、私が屋敷内をぶらぶら歩き回つて居るところを見て、父は矢庭に私を叱咜した。「何をぶら〳〵してをる、ソコラの蜘蛛の巣でも拂はんか。學問をすれば、ぶら〳〵する者になるから嫌ひだ。學問をするなら活きた學問をせい」と頭ごなしに叱りとばされた。大抵の家庭なれば折角息子が修業から歸つた所だから、大に優待してぶら〳〵と遊ばせてをく所であらう。私は恐縮して大に家事を手傳つたのであつたが、之れも私にとりては實に偉大なる教訓となつた。人は唯だ書物讀みとなつては行かぬ、大に讀むと共に、大に活動せねばならぬ。卽ち活學をせねばならぬと云ふ決心を固くした。初めて書生に出て初めて歸つた時に、劈頭第一に一大痛棒を喰はされたのであるから、其の印象の深甚なるは實に著しいものである。今日私が書齋の人たると同時に、活動の人たるを得ると云ふ事が出來るならば、それは父の「何をぶら〳〵」としてをる、ソコラの蛛蜘の巣でも拂はんか」と叱咜せられた事が其の基をなしてをると思はざるを得ない。

▲健康の秘訣

母は醫者の娘であつただけに私の健康と云ふ事に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は餘程注意したと見え、私にかたく間食を禁じた。特に菓子や甘味は堅く之を禁じ、何と云つても之を與へられなかつた。そして私が寺小屋から歸つて、腹がすいた腹がすいたと訴ふれば、母は鐵架の上に握飯を一個載せて、狐色に燒いてくれた、私は夫れをこよなき樂しみとした事を今に忘れぬ。私は今日まで齒痛を煩つた事がない。又腸胃を病んだ事も餘りない。そして常に誠に健康にして、己が職分を盡すを得るは、幼時に於ける母の注意が、私の第二の天性となり、常に攝生を重んじたためであると深く感謝してをるのである。

▲父の大反對

少しく餘談にわたる樣でもあるが私の基督信者となる當時の事を話して見やう。其後私は熊本に出でキャプテン、ゼンス氏の熊本洋學校に學んだ。御承知の通り、ゼンス氏は偉大なる人格であつたから、此學校に學んだ者は殆んど皆同氏の感化をうけて、基督信者となつたのである。私も何時とはなしに基督敎に志し、熱心な求道者となつた。

或時歸省して父に此事を語ると父は勿論大反對であつた。そこで私が「お父樣はそうおつしやるけれど、之れがもし健磐達命であつたなら、必ず耶蘇敎を信ぜらるゝであらう、命は事理のわかつた方であつたから」と申しますと、父は非常に立腹して、不屈至極な奴である、貴樣等が耶蘇敎など信仰すると云ふのは結局、國學をやらぬからの事だ、我國風と云ふことを心得ぬからである」と大叱責を受け、之より早速國學を研究せよと、父の友人で熊本に於て國學を敎へてをる、船場某に添書をして、立所に熊本に追ひ歸された。私はそんなら行つて見ませうと夫れを以て熊本に歸り、一つやりこめてやらうと思ひながら直に船場某の門を叩いたのであつた。行つて見ると三十位の婦が玄關に待つてをる「お前さんは何しに來たのかと聞けば八卦を見て貰いに來てをるとの事である。八卦をおく先生なら、大抵分つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をると思つたが、今更歸るわけにも行かず、暫く待つてをる、やがて八野もすんだと見えて、私に來いと云ふ。先生に面會して、來意を告げ、さて先生と一問題を提出し、「高天原とは何處でありますか」と尋ねた。船場先生がおつしやるには、高天原は太陽の中にあるんだとの事である。そこで私が太陽は鑛石が非常な熱度を以て燃燒しつゝあるものとは天文學者の定說であるが、あの中に高天原があるのですかね。と云へば先生はム、あの中に黑點がある、あそこが高天原だと云はるゝ。私はハハア嘸ぞ暑い事でせうねと呆れてしまつた。

夫れから又更に「西洋と日本と何れが先きに開けましたか」と尋ねた。先生は「それは元より日本が先きに開けた、西洋は大貴己命が行つて開いたのである」と云はれた。そこで私が夫れは面白い、埃及の文明は今より約五千年我紀元前三千年頃に、既に立憲政治が行はれ、彼の金字塔なども出來る位發達してをつた樣ですが、開けた國を開けない國人が行つて開くなんて、仲々珍なものですねとやつたので、先生ギヤプンと參つた。私は其まゝ引き下がつたのであつたが、父が何故國學をやらぬかと云ふから、失敬ながら、アノの先生は私の質問に答へきれないから止めましたと云つてやつた。そして私は十八歲の時、決心して洗禮を受けたのである。

（談話筆記　文責記者）

懷かしき思出

元良よね

▲しとやかな姿

私はよく人樣に、鄕國は何處ですかと聽かれますが、之れでも日本橋の眞中で產れたもので、生粹の江戶ッ子で御座います。家は勿論商人で御座いまして、父も母も別に之と云ふ長所のある人物でも御座いませんが、それでも私にとりては色々忘れられぬ

思出がありまして、今日と雖も母の事など思ひますれば唯もう懐かしい事ばかりで、お母さんと呼んで見たくなる位であります。私の父は隨分長命しましたので、つい近頃まで存生して居りましたが、母は私が十二歳の時に亡くなりましたので、母に就ての思出は皆十一二歳頃の事で御座います。

母は誠にしとやかな性質の人で、幼い時の母に對する記憶を辿つて見ましても、何時も心に浮ぶ事は奥の室に座つて裁縫をしてをる、極めて物靜かな母の姿で、其の多く語らず、又語るにもはしたなき言葉を使はず、萬事に淑德なる母の面影は、私にとりては實に無言の敎訓であります。父の弟の妻は餘り優しくない人であつた見えまして、祖母樣が母に向つて、彼女がお前の半分やさしければどんなに仕合せであらう、とよく申した事を幼い耳にも聽きまして、家の母樣はいゝ人なんだねえと、幼心にも思つたのでありましたが、眞に母の此の德行は如何に私に深き印象を與へたか知れません。私は今日でも時時自分の事を顧みまして、あゝお母樣はこうではなかつた、お母樣ならこんなにはおつしやらなかつたらうにと、我身の至らぬことを泌々と感ずることがあります。はやくから母に分れ、父親や、祖母の手にて育てられた、我儘な私の心に、常に絶えざる鞭を加へ、反省を促したものがありまするならば、それは學校の修身書でもありません、先生の敎訓でもありません。實に自分の室に座つて、物靜かに裁縫をして居つた、しとやかな母の面影であります。

▲臨終の物語

母は私が十二歳の夏、長の患ひの後ち亡くなりました。何の病氣であつたかはよく存じません。何でも五月頃であつたと思ひます。もう愈よいゝけないと自分にも感じたと見えまして、私を枕頭に呼んで種種と私の將來の事を申してくれました、まあ遺言で御座いますね。そこで私がもう悲しさが胸一杯になつて歔りあげて泣きますので、母は困つたと云ふ體

で、別に悲しそうな顏もせず、例の物靜かな態度でから申しました。「お母樣はね、お前を產んだ時、大變な病氣をしてね、お醫者樣も誰も、もう駄目だと見放された事があつたのよ。若しも其時お母樣が死んで仕舞つたなら、お母樣はお前がこんなに大くなる事も見ないし、お前も亦お母樣を知らないで居らねばならなかつたのよ。夫れを思へば、こうしてお前が十二になるまでお母樣も生きて永へ、お前もお母樣に可愛がられて今日まで無事にすごした事を感謝せねばなりませぬ。何も悲しむことはありませんよ」と、懇ろに語られました。此時の母の平安なる顏は今に忘れません。私はこれを聽きましてから成程と思ひまして、泣くことをやめて、母の物語を聽いた事を記憶してをります。

　其後幾何もなくして母は永眠しましたが、私は悲しいには違いありせんが、母の言葉を思ひまして、十二年の歲月を母と共に暮したことを回想して、唯だ詫びしい、懷かしい思ひに耽つたのでありました。

私は母の臨終の事を思出して、唯だ一人の愛子を殘して世を去らんとする今はの時に、女々しく目前の悲しみに心を奪はれず、過ぎし十二年の事を思ふて自ら安んずるのみならず、悲しめる其子をも慰め勵ますとは、何と美しい心掛けではないかと、今更のやうに感にたへないのであります。

▲女學校通ひ

父は商人には似ず一風違つた人であつたと見えまして、別に學問をした人でもないのに大抵な本は讀みまして仲々事理に通じた人でありました。そして書見がすきで暇さへあれば何か讀んでをりました。父の壯年時代は、今日英學が流行る樣に蘭學が全盛の時でありましたので、父も或る先生について之を學んだそうであります。

　こんな風でありましたから、私にも普通町家の娘の樣に三味線などの稽古は堅く之を禁じ、之からの人は婦人でも學問をしなければならん、學問が大事

だと申しまして、母が亡くなつてから、一二年もたつてからでしたか、十三か四の頃から或る醫者様で英語の出來る方の所に英語を習ひに參りました。其時代の英語と申しますと、實に面白いもので、殊に素人の先生でありますから、其の發音などと申しましたら、今日から考へると實に滑稽なものであります。そう致します中に、日本橋から京橋丸の内まで燒けました、あの大火事がありまして、家も類燒しましたので、宅を京橋八丁堀の方に換へまして、

英語の勉强も自然中止となりました。ところが其頃は父も商賣をやめて居りましたので、其家の表の方を貸してくれと申す人があります。それが津田仙さんで、學農社の販賣部を置かれたのでありました。夫れ以來津田さんと御懇意になつたのでありましたが、私が家で勉强してをるのを見られまして、一層學校にやつてはどうだと父に勸め、其のお陰で私は今の青山女學院の前身、其頃築地にありました海岸女學校に入學

する事となりました。茲で海老名先生の奥様（當時横井みや子様）ともお友達になつたのであります。私は根が鈍い性質でありましたから、何も皆様のやうに大した學問も出來ませんでしたけれども、併し之を普通の町家の人たちに比べますれば、衣物の事や遊藝の事位にうき身をやつして、一生を有耶無耶の中に送りますのに、父が進歩主義の、一風違つた人でありました爲に、新しい教育をうけ、殊にそれがために信仰の道に入り、こうした幸福な生涯を送りますことは、全く父の御恩であると、深く感謝して居る譯であります。有難きものは父母の恩愛であります。

▲忘られぬ感謝

私は學校に通つてをる中に、基督教のお話を承はり、其の御教への誠に尊きことを感じまして、或時愈よ洗禮をうける決心をいたし、まづ父に其の決心を語り、父の意見を伺ひました。私は或は父が反對

しはしないかと心中深く案じまして、どうか父が許してくれます様にと、心で神様にお願ひ申したのでありましたが、父は反對いたしませんのみならず、此の宗旨は誠によい教であるやうだと申しまして、さて言葉を改めて斯う申しました。「併しお前は此教へを奉じて、十分にそれを身に行ふて往く決心であるか。之を信仰したのはよいが、若し終りまでそれを守りとほすことが出來ず、半途にしてそれをやめたり、又其教へに應はぬことをするやうでは、寧ろ信仰しない方がよい。そう云ふことがあつては自分一個の事はさてをき、他人を躓かしめるもので、即ちなまじい信仰したが爲に却て耶蘇宗の妨害をするものである。其決心はあるや如何に」と。私は成程、親は何處までも親であると益々感動いたしまして「はい斯く決心しました上は、私は身にかへても此聖教を信奉いたし、立派な信者として生涯を送る決心であります」と申しました。そこで父も快く賛成してくれましたので、小方仙之助先生に洗禮を受

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けましたので御座います。恰度卅年になりますよ。私は此時の父の教訓ほど有難く感じた事はありませんでした。自分一個の信仰の薄らぐのは、啻に自分一人の禍ではなく、それが頻を他人に及ぼし、延いては基督教其ものゝ上にまで及ぼすとの教訓は、實に私の信仰の上にどれ程刺撃を與へ奮發心を喚びおこしたか知れません、私は自分の信仰の衰へんとする時、主の御足跡をふむ事の困難を感ずる時は、此時の父の教訓を思ひ、又其時の自分の決心を思ひまして、弱りたる心を引き起つるのであります。今日まで兎に角に信仰を續けて居りますのは、父のこの時の教訓が與つて力あると思ひまして、深く感謝して居る次第であります。

▲父の受洗

それから今一つ感謝に堪へませんことは、父の洗禮であります。之はづッと後の事でありまして、父の亡くなりまする四五年以前の事であります。いえ別に私の感化などゝ申すことではありません。例の讀書癖が老境に及びましては唯一の樂しみとなりまして、自然基督教の書類なども讀みまするし、又津田さんや其他の交際から、段々基督教に接近して來たので御座いませう。そうして愈よ信仰すると云ふ理由が寔に私には有難く感せられます或時私を呼びまして申しまするには「わしも基督教を信仰しやうかと思ふ。其理由はこうだ、わしはもう幾何もない餘命、宗旨などはどうでもよい樣なもので、今更改宗する必要もないのであるが、お前は之から將來が永い。で、若しもわしが此儘で死んだなら、お父樣が同じ信仰に入つて亡くなつたらどんなにか仕合であらう、と事につけ、折にふれて思ふであらう。夫れを思へばわしも同じ宗旨に入つて、同じ神樣を讃美して死にたい、」と。斯樣申されました。そうしてハリス監督から洗禮をうけられたのでありましたが、私は何が嬉しと云つて、此時ほど嬉しい事はありませんでした。ア、お父樣は半ば以上、私のため

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に洗禮をうけて下さる。親は眞に子のために生きて居るものであると云ふが、子の將來を思ふて、信仰をするとは、ア、何たる有難きことであらうと、嬉し涙に咽んだのでありました。

　母と云ひ父と云ひ、私にそんなに取立てゝやかましく教えたり、言葉を以て、あゝしなければならぬものだとか、こう云ふ心得がなければいかぬとか、訓へたことは覺えて居りませんが、是等の懐かしい思ひ出は、何時も私の心を占領いたし、私にとりては活ける無限の教訓として、常に私の心に働いてをるのであります。

（談話筆記、文責記者）

　俗に三ツ子の魂百迄もと申しますが、私はいつも次の事實を思ひ出しては、おそろしく感じて居る事が御座います。それは、或る立派な教育家の御孫さんで御座いましたが、五歳位にお成り遊ばして或る日「カツポレ」を踊りなさいましたので皆様の驚き方は一通りでなく、何處でこんな踊を覺いたのであらうと、色々其の原因を調べたら。まだ其の御孫さんが子守りに背負れて居られた頃、其の子守が「カツポレ」を見るのが大好きなので、よく背負しては、見に參りましたそうです。其の時分はまだ三ツ子なので只見る丈けで思ふ様に手足がきかないから、其の儘になつて居りましたのが、さあ手足が自由に働く様になりますと、年頃目に映つて居りました事を發表して見たくて、踊つたのだと云ふ事が分りましたそうです。（ふじ子）

雑俎

覺醒の意義を貴からしめよ

海老名みや

曾て虞美人草の藤尾といふ女を見て、夏目さんもよくマア思ひ切つて、こんな女をかゝれたものだ。まさかあんな樣な性格の女が、我々日本婦人の中に出るであらうかと、心窃かに怪しんだのは、つい二三年前のことでありましたが、世の移り變りは恐ろしいもので、藤尾に似寄つた性格の女を、小說の中に、又は實際に見出すことは、此頃では、あまり六かしいことではない樣であります。殊に近頃若い人人の間に、北歐文學が盛んに讀まれ、かのノラが劇に迄演ぜられる樣になりまして、幾百千の若い男女に、一種の新らしい刺擊を與へたのみならず、女子の覺醒といふことが、其人々の勝手〱の意味に於て、合點される樣になつてをることは、疑ひないことであらうと思ひます。これは我日本婦人にとつて、兎も角も一大進步であるは申迄もありませぬが、慥かに精神上一大革命を來しつゝあるのであらうと思います。其覺醒とは如何なる意味であるか、又かのノラの覺醒と我々日本婦人の覺醒とが、果して同じ意味に於て、同じ狀態に於て實現せられるかどうかも問題であらうと思ひます。なぜなればかのノラの境遇と、我日本婦人の妻としての境遇とは、雲泥の相違があるではありますまいか。彼の女は世にも子煩惱の父の手から、女房思ひの良人の手に渡されて、其愛を專らにして、多少は苦勞の實驗はあつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にもせよ、幾年月の世の春を樂しく送つた女であります。これは長の年月、家庭に閉塞せられて、良人の無情を歎ちつゝ、憂年月を辛抱に辛抱して、送り來つた日本婦人とは非常な相違でありますから、從て、此覺醒の曉は其心理狀態に相違を生じますことは、當然であらうと思ひます。私はかのノラの覺醒が果して正當であるかないかの論は別として、兎も角も彼の覺醒其ものに、敬意を表せずしては居られませぬ。よくもよくもあの境遇にありながら、あの覺醒をしたものである。何ものか心の奥の深い〳〵さゝやきに耳をすますの力があつたでなければ、あすこまで行くことは出來なかつたであらうと思ひます。それは一時の苦痛や、失望や、怒りの爲めに、かの冷酷な言語を吐くに至りましても、一度良人の優しい聲をきゝましては、氷と冷へた心も忽ち解けて、思ひ立つた志も砕けて仕舞ひさうな者であるのを、キッパリとはねつけて出て仕舞つた處は、實に恐ろしい强いものがあるではありませぬか。又其の覺醒が如何に盛んであつたかは、あの行爲がなくては分りますまい。

無論私は今、ノラを論ずるのではありませぬ。私共年長者としては、たゞにかの劇は面白かつた、痛快であるとのみは見過しにして居られませぬ。斯樣なことが若い人々に、どんな響きを與へるであらうか、願はくば今盛んに叫ばるゝ處の覺醒の聲は、眞面目に、其根底からの聲であつてほしいのであります。此の數年來我國女子の進歩發展は、實に驚く可きものであると思ひます。此の點は私共年長者として、人の母として、よく〳〵承知して置かなければなりませぬ。幾多の女子創作家も出來ました。藝術家も現はれました、又深いか淺いかは知りませぬが哲理めいたことを論究する頭腦も出來て來つゝあることは間違ひありませぬ。斯樣に自ら事物の道理を辨へる樣になり、廣く讀書を致しまして、世の大勢をうかゞひ知る樣になりますと、我現代の社會に對して、家庭に對して、不滿、不服のことのみ多く、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兎もすれば其の反抗心にかられて、あらぬ方にそれ行かんとする恐れは慥かにあると思ひます。げにや近頃女子の手になれる創作中には、其不滿を現はしたものや、まけじ根性を寫したのが隨分あるやうであります。これらは極く無邪氣て元氣があつて、むしろ面白くよまれますが女が男の戀を思ふ存分弄んで、最後に「時の力」にかこつけて、弊履の様にすてゝ仕舞ふなぞのことに至つては、私共には、一種のいやな不安、不快の念を起さずしては居られませぬ。なにも女が男の玩弄物にばかりなつて居るものか、女は女の自由に恣にして、男をもてあそんでやれといつた様な風にしか見えませぬ。如何に舊道德を破壞する理由がありましても、何の制裁もない本能にまかせて行ふことは、實に危險千萬なことであります。世の先覺者を以て任ずる人々は、此邊はよく注意しなければならないと思ひます。

人としての自覺は女子のみに必要ではありませぬ男子にも同じ様に必要であります。然るに人としての自覺を有てる男子は我國には實に〱少數であります。其證據には堂々たる代表的紳士にして、父母妻子の前で、公然おはなしの出來ない、恥かしい行爲をなしつゝある人々の、數多きことは、今更申迄もありませぬ。かゝる男子の狀態に對して、女子の行爲が反抗的に馳せたがることは、勢ひ已むを得ないことではありますが、それが其人の動機となり、それによつて動きそれによつて支配される様では全然覺醒の意義を過つて仕舞ふことになります。私は望みます、今日叫ばれる處の女子の覺醒が、眞に人たるの覺醒であれがし、人たるの道をふみ人たるの行を爲し、一言一行愼重の態度をとつて、正々堂々、世の不正不義にむかつて戰ふ勇者たらむことであります。

又世の先輩方よ、母たちよ、私共の愛する娘たちの叫びを間違つた聲として一概に斥けてはなりませぬ。此聲には慥かに一大眞理が含まれてをります。此聲が私共に一種の不快な響きを與へますのは、一

面我々が其の眞意義を會得して居ないのと、一面間違つた叫びがきこえるからであります。願はくば私共は眞の覺醒に入り度いではありませぬか。覺醒の意義を貴からしめ、神聖ならしめて世の惑を解くのみならず、世をして此の覺醒に入らしめるのは眞に私共の任務であると思ひます。

姉より妹へ

ＫＨ子

梅子さん、今日は大變におはなしを過しました。松田さんにも久しぶりでお目にかゝつて、昔の樣な氣がいたしました。今日は思はず心のまゝをのべましたが、私此ごろ切に夫婦と云ふことに就て考へてゐるものだから、其の問題になると、つひあんな風になつてしまふの。いろ〳〵男の方の要求もきゝ、婦人の要求も考へてみましたがね、大抵誰のも同じ樣ね。勿論今の日本の男の方は我まゝには違ひないと思ふけれど、女も亦大に心得ちがひがあるんだから、お互女性はしかと考へ直してかゝらねば、自ら女と云ふもの〻眞の立場と價値と云ふものを失つてしまふと思ふわ。私などもその一人かも知れないがどうも日本の女は全體に結婚と云ふ考へがまちがつて來てゐると思ひますが如何？尤今の日本の有樣では女には多くは財產と云ふものもなし、生產力もない事になつてゐるから、その罪でもありませうけれど、餘り男に物事を期待し過ぎる、つまり結婚に伴なつてあるものを當然の要求と思ひ過ぎてゐるわ、言をかへて云へば男に責を負はせ過ぎてゐると思ふわ、結婚と云ふものは大體二人の人が一ッとなつてたらぬ所を力になり合つて一生の友として行くと云ふのでせう。それを女は夫とした人が當然たべさせて着物を云ふがまゝにきせて、一切の負擔をして保護して、而して氣持よくさせる樣に愛してゆかねばならぬものときめて、身が定まるとそら觀劇とか、着物の贅澤とかに、身をやつしてゐるのが多いでせ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

う。又さう出來ぬ夫は意氣地ない人の樣に思ふ事もあるとの事ですわ、隨分夫たるものは可愛相な話よ馬鹿〳〵しい話よ。一度その人の愛を得やうとした爲に、時をさゝげ精神をさゝげ、財產をさゝげて一生重い負擔に甘んじてゆかねばならぬとは、可愛相じやないの、愛したと云ふことは惡い意味で愛したのぢやないんだから、罰をうける譯はない筈よ。その上、人の自由まで(勿論聖い意味の)縛られてはいよ〳〵立瀨がないのぢやないの、男は可愛相よ。本當なら男がする負擔とほゞ同じものを女も負擔しなければならぬでせう。それは家庭の平和と聖くなる事を圖り夫を慰め子供も專心に天からの預りものとして、恐れをもつて育てあげると云ふ責任を果してこそ眞に女の價値と分擔の實があがるわけよ。さうぢやないの?。だから夫は親友で約束上より合下宿をし

てゐる心得でやつてゆけば、大丈夫だわ、夫にばかり負擔をさせては共に立ちゆかないわ、共に同じ責任があるのですもの、夫の御荷物と思はれる事はこの上ない女の耻よ。我々女性全體の耻よ。我々は母も子も夫もたよりにはならぬものよ。それは同じ力で八方から支へ合ふた柱だから、そのより合ふた中心となる奇しき力は天から來るのよ、たよりは天の神ばかりよ、外には全く何もないのよ、はかない様だけれどそれが眞理なのよ。肉によるつながりははかないはかないものなのよ、神による結ばりでなくては永遠にゆくものではないのよ。だから先自分が永遠の生命に入つて、さて家庭をそれにひき入れないのは、終りまでたよりないはかない夢の關係に過ぎない事になるのよ。神によらぬ夫婦の關係のはかなさ位、私をなげかしむるものはないのよ。靈の結ばりは永遠にとけぬ緣なのよ。我々女性の夫は前に云ふ樣なさまぐな物を、我々女性の前に捧げて口でこそ男より下のものとか、わからぬものとか云ひ

ますが現にそれ丈の事を男はしてゐるものを、我々女はその夫に對し、どれ丈つくしてゐるでせう。省みれば實にうら耻しい程のものではないでせうか、どうしても女はめさめて男を救ふ立場に立たなければ、尊く美しくつくられた女としての生命がゼロになるわけよ。

それならば如何して救ふべきかと云へば、ペテロ前書第三章の一節『妻なるものよ』と云ふ所から十七節あたりまで讀むでみるとはかるわ。受くるよりも與ふるものは幸なりと云ふわけで、愛されやうと思ふよりは愛してやらうと思ふ方が一段上の幸福なんですわ。自分から任じて立つ方が上なのよ我々女性が男子から求婚さるゝ時に愛して貰ひたいと頼むだわけではないでせう、でも愛されたぢやありませんか。妻になつたつて「一生懸命に愛して下さい」なんて強いて頼む樣な事は情けない事ぢやありませんか、愛して呉れやうがくれまゐが、こちらは聖く深き兄弟の愛を以て其人の爲に神の前にはかつてやつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てゐれば、遂には其人も救はれ、こちらの人格もわかつて、結局先方から愛させてくれと頼む位になると思ふわ、夫でももし愛さなければ愛さなくてもいいぢやありませんか。こちらは愛される爲、卽ち自分のために愛してゐるんぢやなくて、神の爲にその人の爲に愛してゐるんですもの。その愛は兄弟の愛姉妹の愛と同じ聖なる愛で、結婚によつて左右される樣な年と共にうすらぐ樣な愛ぢやないのよ。もう理屈はよすわ……………よく味はつて讀んでくれゝばあるものは少し得られ樣と思ふわ。

友の許に

野菊

――もと〳〵弱い私は急に世の中が厭になつて何處かに逃げ出したくなりました、逃げ出して何處に行く？　私は行きつまつたのです。此廣い世の中に此小さい身と心とを容れる處がないのでせうか？、私は幼かつた昔が戀しくなりました。母のふところを唯一の根城としたあの時代は幸でした。今はたとへお母さん！と逃れて行つても、少し許りにもせよ新しい敎育を受けた私共の胸に湧き出づる涙の總ては、母の情け深い手にも全く拭ひとつて戴く事が出來なくなつたのです。此時私は丁度暗の夜に道を失つた旅人の樣に、途方にくれて泣くにも泣かれず、暫し茫然と立つて居りました。けれど幸にして私は暗に迷ふ者となり了せませんでした。「……世の中が厭になつたなどゝは信仰ある人の言ふ事ではありませぬ、貴女は我儘です、信仰を失つたのです。そんな事で神樣に申譯が立つと思ひますか、基督信者だと人に顏が合されますか、世の中が厭になつたなど云ふ人の祈りは、決して神樣はきいて下さいませぬ」と○○樣から手酷く叱られました。何を悶へ何を悶いて居る？、凡てを神樣にお任せなさい、何故悲しければ悲しい、苦しければ苦しいと赤裸々に神樣に訴へられません？おすがりなさいお祈りなさい幼兒の如くになつて。神樣はきつと救つて下さいま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す、道を開いて下さいます……と諭されも致しました。眠つて居た私の信仰はかうして呼び起されたのです。それでも未だ眼の前は全く明かではなく、足元はふら〳〵して居りました。けれど私は直に神樣の前に跪き「おゝ愛の父よ」と祈りました。

そこへ舞ひ込んで來たのが貴女のお手紙です。

――堪へ難い苦痛を感ずる、駄目々々、私は弱くて全く駄目、ほんとに苦しいんですもの。之と云ふのも皆未だ馴れないから、眞面目過るから、上品すぎるからです。熟々思ふ、惡口も云つたり、義理を缺いでも平氣で居られる樣な人間にならなければ、此苦痛は無くならない。最も神聖なるべき教育界すら墮落して居る、女子教育家も案外劣等な分子のより集りと見える……馬鹿になつて耐へるより外に道はない――。

こゝ迄拜見して來て私は心細くなりました。誠に今の教育界に人物なしと申しても過言ではなからと思はれる程、學淺く經驗少き私共の眼にさへ餘る樣な事が多いのです。今迄の理想も抱負も滅茶〳〵にされてしまふ樣な心持が致します。眞面目な人程苦痛は一層大なるもので御座いませう。けれど私共は苦痛を逃れんが爲に世の俗惡に染つて了ふ樣な卑怯な事は出來ませぬ、さりとて馬鹿になつて之を他所に見のがすのも、餘りに意氣地が無さ過るではありませんか。我々は常に天を仰いで歩みつゝも倒底地を離れる事は出來ませぬ、何處まで世と並行し調和して行くべきかは問題でせうけれど、一面に於て大に俗惡と闘つて行かねばなりませぬ。周圍は汚れた空氣で充されて居ます、此汚れた人の世の中に地上の天國を建設するのは私共に與へられたる務めではありますまいか。幾度か砥石にかけられて劍はとぎたてられるではありませんか、人も幾度か血を吐く樣な苦しい試煉に會つて眞に價値ある人間となり得るので御座いませう。神我と共にいませば世に恐るるものは御座いません、徒に失望せず嘆かずかこたず、共に行く所まで行かうでは御座いませんか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二月の雨

野口精子

鉢の梅盤の水仙ほのかにもにほふ夕のきさらぎの雨

○

雨の後きりにまかれし紅梅の夢はさめ行く太陽は匂ひいづ

○

たへず行く水の音にも新しきひゞきをのせて今日か春たつ

○

罪ありやたゞわけもなく若き血のふるひにたへで山を泣く身に

○

人ならず物にもあらず悩ましき戀心地をは何にするらん

○

かくて我夢よされかし朝さめの心地に春のわれにかへれば

○

水草に水の涸れたるみじめさと戀せし後の乙女心と

○

きさらぎの雪する日なり五十日海越へて來し君が文見る（南洋なる有田氏へ）

○

南洋のフィジーの島に椰子の實を食みてぞあらん君をしぞおもふ

○

思ひ倦み椰子の樹陰にうたたねの夢多からん天涯の客

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

子女教育に對する母の務（其十九）

海老名みや

少年時代の友達に就て

前々號に運動と友達との關係に付て、少しく記しましたが、運動に關係しないからとて友人の心配がないといふものではありませぬ。こゝに一きはの熟考と研究を要しますことは、善良なる家庭の子供が往々惡友に誘はれて、あられもない行爲を仕出かし父母親戚の歎きとなり、恥辱となるといふ樣なことは、私共しば〳〵耳にすることであります。宗教家などの家庭ではよい子供は出來にくいと迄でいふ人すらある位であります。善良な家庭に善良な子女が出來るといふことは理の當然でありますのに、兎もすれば反對の結果を來して眞白の鷄の卵から眞黑の雛がかへるといつた樣な歎かはしい實例を見ることは實に恐ろしいことで、又深く研究しなければならないことだと思ひます。素より我々不完全な人間によつて成立された家庭でありますから、善良な家庭だと申した處で他に比して善良だと申す迄で、或は嚴格すぎたり又はあまりに溫和に過ぎるとか、樣々の缺點があることは申す迄もありませぬ。が、兎あれ角もあれ家庭の感化ばかりで子供が育つものであるとすれば、とんだ間違ひを仕出かす樣な不心得者が出來る筈はなからうと思ひます。處が嚴格な家庭にズボラな道樂者が出來たり、穩やか平和な家庭に其平和を破る不孝者が出來るなどゝいふことは、何か

そこには理由のあることではありますまいか。必ず種々な理由があるとしなければなりませぬ。其中の確かに

大なる理由

の一と思ひますことは善良な高潔な家庭の空氣を呼吸してあまりに無邪氣にあまりに生に育つて居る者が一度他の不潔な空氣に觸れました時は恰も溫室の中に世の風を知らずして培はれて居た花が一寸冷氣に當りますと忽ち弱つて生氣

を失つて仕まふといふ様に、非常なはげしい刺激を受けるのであらうと思ひます。例へばかゝる高潔な家庭の常として卑猥ないかゞはしい言語などは更に耳にするの機會はありませぬのに、ふと左様なことを聞きました時は、しかも友人の口を通して聞きました時は、どんな感じがするでありましやう。新らしい、和らかい少年の頭腦に、はげしい刺激を與へて

拭ひ去ることの出來ない程の深い〳〵印象を受けると同時に又其友人に對しては、かゝることを其口より聞くは耳の穢れである、友人としては恥べき人物だと多少つまはじきする心も起らぬではありませぬが、一面いよ〳〵好奇心に驅られ一種の興味を以て、知らず〳〵其交りを深ふするといふ樣になるのであらうかと思ひます。この樣に善良なる家庭の空氣をのみ呼吸してをりますものには、一般穢れた空氣になれた人にはなんとも思はない程のことでも非常な害を與へるといふことになるのであります。これを思ふ時には實に堪へられない痛苦を覺えます。皆さん如何でございます、私共の家庭に幾種かの新聞をとつてをりますのを、年頃の子女に放任して讀ませることが出來ましやうか。都下の堂々たる新聞にして其小說や三面記事は殆ど食卓のはなしの材料とすることの出來ないことばかりで滿ちて居るでありませぬか。これが

我國現代の社會の有樣

であることは誰しも否むことは出來ませぬ。して見ますると、社會と家庭とは天と地との相違があります。願はくば我々の潔き家庭に穢がれた社會の風を吹かせまいと、くろがねの垣でもめぐらせ度い樣な氣が致しますが、何しろ家庭と社會とは切つてもきられぬ親類の間柄でありますから、いやでもお互に孤立して行くわけには參りませぬ。と申して玉の樣に疵なく育ちつゝある子供等にどうしてむざ〳〵社會の恐ろしい風があてられましやう。やつぱり其子の中に確乎たる精神が出來まして、誘惑に打勝つて行けやうと思ふ迄は、親たるものは身をもつてかばふてやらねばなりませぬ。其かばふといふはどうするかと申ますと、先づ子供の友達に深い注意を拂ふてやることであると思ひます。注意を拂ふと申して鵜の目鷹の目で、其人の擧動を窺ふといふ樣なとは其友人にとつても、又子供にとつても不愉快千萬なとでありまして、却て反動的に親の目を遁れ樣といふ面白からぬ結果を來すことにもなりますから、左

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樣な心持で對するとは決してよくないと思ひます。子供が親しく交る友人等には出來ることならお茶菓子の一つも自ら持て出て親しく心安くする樣に致したらば、若し善良な人物でありますれば必ず本人も嬉しく思ひまして打解けて交る樣になりましやう。さうすると多少よくない處がありましても自然とよい方に化せられることもありましやう、人の子我子の區別なく又さうあり度いものだと思ひます。

前にも申しました通り善良なる家庭に生に育つた子供は非常に友達の感化を蒙り易いといふことは常に心に留めて置かなければなりませぬ。今日は僕の內でカルタ會をするから、君遊びに來たまへなどゝ誘はれましても、如何に友人の內だからとて、知らない家庭に決して放任してやつてはなりませぬ。遊び盛りの少年ですもの、定めて行たがるでありましやうが、か樣な場合には決してやつてはいけないと思ひます。同趣味の家庭で互に親と親との交際もして居る家でありましたらば別問題でありますが、かゝる會合が其子を墮落せしめた誘惑の元となつたといふ樣なはなしはしば〳〵きくことであります。

それといつて子供をあまり無趣味に固くるしくばかり育てますことは決して敎育の法を得たものとは思ひませぬ。子供は樂しく遊ばせもし、たまには我を忘れて興ずる折も與へねばなりませぬ。其爲には出來ることならお正月などは我家に子供の爲に遊びの會を催しまして、子供の友人をも招き、心から滿足する樣な趣向を設けて遊ばせる樣にしましたならば內の子の爲にも又其友達の爲にも非常によいことであらうかと思ひます。そうして又

善良なる友の撰擇

を致しますには、親自身があの人は、この人はと、無暗と其人々の品定めをしたり非點を擧げたりして子供に注意がましく致しますことは、却て反撥心を起して、非難される友を、かばつてやり度いといふ氣になつたり、又は無遠慮に、人を批評するといふ

樣な、不眞實な習慣をも養ふことになりますから、多少の注意と、健全なるはげましとを與へて、友の撰擇は自分自身で致す樣にしむける方がよいと思ひます。不幸にして撰擇を過りまして、よくない友と交ることを見出しましたならば、其時こそ斷乎たる決心を以て其不心得を戒め其交りを斷つ樣致さねばなりませぬ。又其友が必しも不道德な行爲を爲すといふ程でないにしろ、家庭の習慣があまりに相違してゐるとなど、些少の事からして其子供を傷ふ端緒となることがありますから、其邊にもよく注意すべきだと思ひます。

善かれあしかれ友の感化の大なることは、私共自身の幼少の時のことを思ひ起して見ても分ります。私の子供時代に私より少し年上の友がありました。其性格は私とは殆ど正反對と申す程違つて居ましたが其友は非常に私を愛して交つて呉れました。其友は非常な勉强家で、殆ど書物を手から放したとはないといふ位でありますのに、私は至つて遊び好きで

鞠をついたり、お手玉をしたりして居りましても、其友が一心不亂に勉强して居るのを見ますと氣がもめ出して勉强するといふ樣に、どの位勉强の習慣をつけられたか知れませぬ。時折其友が私の家に滯留りに參りますと、夜更るまで話がつきませぬ。何の話であるかといふと、學問のはなしや修養談であります。十三四の子供が、修養談も實にをかしいのでありますが、それが不思議に、興味があつて「確かに小さな心に、一種のインスピレーションとなつたことは忘るゝことが出來ませぬ。私の性格を眞面目に堅實にした點には慥かに此友の感化は大なるものであつたと信じます。

私の知れる大勢の子供の中に一人の實に立派な子供がありました。溫和にして引しまつた天晴な息子振で、相當に學業も進んで參りますので、末賴母しい少年だと、蔭ながら思つて居りました。所ろが内も左まで困らぬ處から、富豪の友と交りを結ぶ樣になりまして、別に其友が惡友といふではありません

けれどもヤレ自轉車よ何よと親にねだつて居る中に次第〳〵に家庭を離れて世の中の趣味に近づき、いつしか樣々の味を覺えて、どう〳〵立派な俗人となつて仕舞まして、氣高かつた其面影は、今はいづこにも見られませぬ。かゝる例は決して珍らしいことではありませぬ

不良ならざれば善良と、極あらつぽく見ますれば何も左程の心配もありませぬが、私共の理想に近い實に氣高い立派な人間に育て上げ度いと思ひます時には、社會は勿論友人も學校も心がゝりなことばかりです。けれども又翻つて考へますれば、やがては我子も亦其

社會の一員に捧げねばなりませぬ

其時に、其社會の怒濤を押切つて彼岸に達し得る丈の力量と鍛錬がなければなりませぬ。其事を考へますと一面限りなき恐れを懷きながら、少年時代からして其訓錬を授けねばならぬと思ひ至ります。

友を撰ぶことの如きも其一つです。よかれあしかれ我境遇に打勝ち、周圍の感化に支配されない丈の確乎たる精神を吹込んで置かねばなりませぬ。左もなき時は、私共、親として我子の上を、寢ても覺めても忘れることは出來ませぬ。願はくは私ども其子の友達の撰擇や、其待遇に心を用ひますのと同時に、其子の精神敎育に全力を注ぎまして、ア、我子は必ず樣々の誘惑に打勝つて行くであらう、微かながらも恩愛深き父母の面影を思ひ浮べて、自己を守つて呉るであらうといふ信仰を持つ迄に徹底せしめ度いものであります。

玩具撰擇の注意

高島平三郎氏述

玩具は子供の身體や、心の育つために大事な助けをするものですから、子供のためになる玩具の選擇に御注意なさることを望みます。今左に子供の年に

應じて適當と思ふ物を記して玩具をお求めなさる方の參考に供したいと思ひます。元より之れは子供の各時期の代表となるべきものを擧げたのですから、其の數が甚だ尠う御座います。併し大體之に準じて他の物をお選びになつたらよいでせう。

嬰兒期に於ける玩具の注意

▲嬰兒前期(生後一年)

一、仰臥時期、此時期は子供は唯わきから見たり、聞いたりするばかりであります。

風車、風船、でん〳〵太皷、簫の笛、旗(紙)。

二、安座匍匐時期、此時期の子供は自ら手に持つものを必要といたします。

おしやぶり、ゴム人形、ムゴ毬、ガラ〳〵、犬猫鳩等(ゴム又は磁器製)

三、起立歩行時期、此時期の子供自ら手に持ちて動作するのであります。

旗(布)、太皷、笛、ラッパ、不倒翁(木製)、馬、猿、兎、鷄等(ゴム、磁器、又は布製)

▲嬰兒後期(生後一年—三年)

前期の終りの物、玉乘人形、毛人形(臺をたゝきて角力せしむるもの)括り猿(布に綿を入れて製したもの)、金魚、鯛、蛙、等(磁器又はゴム製)、(田)鳥笛、器械の龜の子、米搗車、桃太郎、天神樣、達摩等。

▲注意事項

一、此頃の子供は何でも口に持つて行きますから、玩具の消毒に氣をつけねばなりません。

二、甜めると繪の具の剝げるものは子供のためによくありません。

三、此頃持たしめる玩具は成るべく木かゴムか、又は布に綿を入れたものを用ゐるがよいと思ひます併しこわれにくい瀬戸物の動物などは消毒に都合がよいから用ゐてもよいのです。

幼兒期に於ける玩具の注意

▲幼兒前期(三年—七年)

動物及び人物畫、動物標本、春駒、器械の蝶、風船、毬、凧、獨樂、繪本、張子の面、舟、車、コロップ、銃、サーベル、積木、組立人形、あね樣、お手玉、おはじき、まゝ事道具。

▲幼兒後期(七年—十年)

竹とんぼ、豆鐵砲、空氣銃、劍、玉、器械にて活動する動物類及船車類、磁氣を應用したる玩具、ハーモニカ、手風琴、繪合せ、綿繪、武者繪、人形、羽子板、千代紙。

▲注意事項

一、ブリキ、ガラスなどで作つた玩具は壞れ易て危いから、成るべく避けるがよいと思ひます。

二、時候によつて與へる玩具は常に變化せねばなりません。

三、賭けごとや、唯偶然の機會で勝負するやうな玩具はいくら改良されても、敎育上好ましくないと思ひます。すご六や、いゝいゝ、あてものの類は卽ちこれであります。

四、子供が自分の力で持ち扱ひ、練習によつて上手になるやうな遊の出來る玩具がよいのです。

五、成るべく子供が自から動いて弄ぶものがよいのです、ぢつとして眺める物は此の頃の子供には不向です。

六、玩具の始末は必らず子供自らにさせねばなりません。

七、一般にこわれ易い玩具は敎育上好ましくないもので、簡易で變化し運動し然かも丈夫で危險なくないものがよいのです。

八、こわして遊ぶものより、組立てゝ遊ぶものゝ方がよいと思ひます。ガラ／＼煎餅などはいくら中によい物を入れても、敎育上からは玩具とは云へませぬ。

九、少年以上の玩具は運動具がよいと思ひます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

吾が姓名と宿所

哲子

手紙に自分の宿所と姓名とを明記する事は最普通でありますけれども、人によりては故さらに是等を明記せぬ事があります。例へば女學校の生徒方が親しいお友達と手紙の遣り取りをせらるゝ時に、封筒の裏に「牛込、花子より」といふやうに、姓も宿所も明記せぬのを折々見る事がありますが、是等は正しい手紙の書き方とは思ひません。萬一其お友達が轉居でもせられた時には、郵便局で之れを差出人に戻す事が出來ません。夫故親しいお友達お互の間では假令手紙の中には名のみを記し合つても、其封筒には正しく此方の宿所姓名を明記するべきことであると思ひます。

又女生徒方のみでなく、度々手紙を取りかはした人々の中には、互の宿所が熟知されてある者として故さらに町名や番地を省く場合もありますけれども多くの知己朋友の宿所を一々暗記して居る事はむづかしくありますし、又一々姓名薄を開いて見るのも煩はしくありますから、差出人の宿所の明記されてあるのは實に便利であります。

凡て自分の存在は誰の前にも明にして公明なる生活をなさねばならぬと思ひます。男女互に遣り取りする手紙には殊に之れが必要で、時としては宿所や姓名を明記せざりし爲に、他人の疑を受くる事などがあつて不慮の災を身に受けた例などもあります。

又之れに連關して、雜誌や新聞などに匿名の投書をしたり、變名で他人の批評をなしたりするのは面白からぬ事と考へます。議論や批評は公明でなければなりません。他人の缺點は成るべく之れを秘すべきでありますけれども、萬一公に之れを攻擊せねばならぬならば、明に吾名を記るして、公平に之れに對する自分の意見を述べるがよろしいと思ひます。かゝる習慣に依つて、不知不識自分の生活を分明にし、言行に責任を有つ様になるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

初孫を持ちし感

よね子

福岡に嫁いてをる長女に、此頃赤坊が出來ましたので、皆様が孫は子よりも可愛いものだそうだが、どんなに可愛かどんなに可愛かつて、聞かれますので閉口してをります。よく世間では、孫は子よりも可愛いとか、甚しきは嫁は憎いが孫は可愛いなどゝ申すこともありますが、成程可愛いには違いないけれど、私はまだ夫れ程までには感じません。そして娘より孫はかわいと云へば娘に對して氣の毒な樣な氣がしますし、又娘が孫より可愛いと云へば、孫に對して可哀想に思ひます。それで私は聞かれる度毎にどちらも可愛いと申してをります。

私思ひまするに孫に對する愛と、娘に對する愛とは分量でなく種類が違ふ樣で御座います。同じ我兒でも五ッ六ッの時と廿四五の時とは之に對する愛の性質が違ひます。まして子と孫とは大きく云へば人一代の相違でありますから此愛は程度問題ではなく全く種類の問題ではないかと存じます。で一口に申したらば、孫は何の事はない、唯だもう可愛い一方ですが娘に對しては、マアーあの子が子供を產むまでになつたのか、何時までも自分は子供の樣に思つてをるのにオ、もう人の母であるか、すると私もいよ／＼お祖母樣と云はれねばならぬ、と云つた樣な、何とも云へぬ希望ある感謝を意味した嬉しみであります。然しこう云ふ風に細かく考へて來ますれば、私は孫を愛するのも娘を愛するからで、娘を愛する愛がやはり形をかへて、孫にあらわるゝのではないかと思ひます。何と申しても親の子を愛する愛ばかり深く且つ切なるものは御座いません。私は孫の可愛いと申すことは決して人樣に劣りはいたしませんが、然し何故そんなに可愛いかと云へば矢張可愛い娘が產んだ孫だからかわいいしと申しませう。

之に就て思ひ出しますとはキリストの御言葉であります主は「己の如く汝の隣人を愛せよ」と申されましたが私はこれを己の如くでなしに、「己の子女の如く人を愛せよ」と解しましても非常なことだと思ひます。私共が我子を愛するやうに他人を愛することが出來れば、たしかに神樣の聖旨にかなふ生涯を送ることが出來ませう。これが私の此頃感ずるところであります。

天國の葉書

みね

一昨年夫を失ふて涙の未だ乾く暇も無いに、昨年又其唯一の頼みたりし父に別れ、今は忘形見の幼兒を抱いて、家の内外を手一つにして入らつしやる、さる奥さんと話した折でした。此日も四方山のとが何時とは無しに御子樣の上に及んだのであります。聞けば一昨年、夫の方が死去られた折の事、御宅の方や親戚は申すに及ばず、お友達の誰彼、ありし昔を語つてをりますと、御息子の辰雄樣が葉書幾枚かを叮嚀に包んで、棺に納めました。かくて埋葬の式も濟み地上に其人を見る由もなく無くなりました。けれども辰雄樣は毎日〳〵物待ち顔に案じて居りまして、「怎うして御父さんから御便が無いだらう、御父さんは郵便箱が見當らないのでしやうか、ね御母さん」と詩ねるのでした。因に申上けますが、辰雄さんの御父さんは御氣の毒な事には中途眼を病んで晩年は御不自由な生活を送られたので、辰雄さんは郵便箱が案せられたのでしやう。けれども待ち焦れた天國よりの音信は、遂に辰雄さんの手には這入らなかつたのです。辰雄さんは其後、御母さんに「僕が惡かつた。葉書は入れたが鉛筆を入れなかつた、鉛筆を入れゝばよかつたのに」と大層殘念がつて居りました。餘りのいぢらしさに御母さんが「じやあ御前はお父さんの所へ行きたいかい」と申しますと「あゝ、行きたいよ、けれども僕一人じや厭だ、母さんも一所でなくちや」と答へたそうです。辰雄さんは其時七歳あどけない此言葉を聞いた時御母さんは怎うなさつたらう、恐くは辰雄さんを抱きしめて泣いたでしやう。それにつけても可愛いのは幼き者です。彼等には此世彼世の境も無く、地上其儘を美化した思を天に懸けて、其處に父在すと感じて居るのです。遠く古にありし人々の信仰の姿なども恁うしたものかと、何とはなしに忍ばるゝ心地がいたします。昔の人と幼子、共に科學も無く、哲學も無く感じの儘に行ひ感じの儘に爲す、極く單純ですが、私共に學ぶべき何かを敎へて居るのでは無いでしやうか。私はあのウブな何物にも崩されずして、いみじくも、宿れる美しさをなつかしく思ひます。「幼兒の如くならずんば天國に入る事能はず。」私共はも少し御互に心をこめて、聖訓を味ひたいもので御座います。

廢物利用展覽會

先頃牛込の成女女學校に上の如き展覽會が開かれまして、記者も招待をうけましたが、誠に有益な企でありましたから其主なる品名だけを左に紹介いたします。

▲ボール紙(塵取、箱類、玩具、鍋七輪蓋)
▲切手(箱張、疊紙張)
▲封筒(二度使用、雑記帳)
▲卷紙表包(熨斗、張物用)
▲電信紙(吸墨紙)
▲呉服紙(ランプ傘、編帯挿、玩具用)
▲反古(焚附、はたき、くす玉袋、包紙、折物、包紙、敷物、掃除紙)
▲紙捻(織物、土瓶敷、煙管差、下駄表、
▲編帯(上靴敷、夏蒲團敷物、箱類、襖張、附木)
▲新聞紙(敷物綿代用、包紙、袋、濕氣止)
▲水引(二度使用、紐、元結)
▲卷煙草包紙(封筒)
▲ワイシャツ(子供前垂、羽織裏、足袋、腰帯)
▲ハンカチ(糠袋、子供足袋、張物用、靴拭、はたき、枕上敷)
▲メリヤス(子供足袋、涎掛、肩掛、雑巾)
▲洋傘(袋類、散髪用)
▲ボロ(草履、掃除用、はたき、靴拭、蠅蚊いぶし、雑巾、紙)
▲リボン(鼻緒、簪、帯留、巾着、肘つき、お手玉針指、羽織紐、小袋、蟇口、箱外張、琴爪入)
▲小切(肘つき、ペン拭、鼻緒、帯締、琴爪入、人形、巾着袋、簪入、蒲團側、財布、揚枝入、菜針差、細工物、羽織紐、涎掛、小枕、ネクタイ、寫眞挿、守札、飾箱、腹掛、根掛、敷蒲團)
▲女袴(前掛)
▲ネクタイ(帯留、下駄緒、ネクタイ二度使用、子供襟)
▲帯地小切(巾着、蟇口、肘つき、帯留、箱入、財布)
▲手柄(小袋、帯留、財布)
▲半襟(鼻緒、帯留、財布、巾着、子供襟)
▲靴下(織物、雑巾、子供手袋但染直す、子供のズボン下)
▲カラ、カフス(糸巻、荷札、名札)
▲網シャツ(ピンポンのネット、玩具入網)
▲洋服(子供の靴、黒板拭、雜巾用)
▲毛糸(織物材料、帯締、メット、絨氈)
▲和絲(ランプ心、ランプ掃除用、巾着、菜、襷、織物)
▲絹絲(餅網、織物)
▲竹皮(鼻緒、草履、下駄表、焚附、摺紙刷、たわし、下駄洗、物洗)
▲茶ガラ(くゝり枕材料、塵取用、臭氣止、兎馬等の飼料)
▲パン屑(パン粉、菓子、消ゴム代用、襟垢取)
▲洗流飯(乾飯)
▲甘藷(澱粉、焚附、アルコール)
▲馬鈴薯(餡材料、焚附)
▲卵殻(肥料、瓶釜等洗用藥、黒焼)
▲蜜柑皮(菓子、ジャミ、蚊いぶし、藥味、藥用)
▲貝殻(小皿、匙、杓子、簪、玩具、織布材料、石鹼入、膏藥入、石灰)
▲石油罐(バケツ代用、塵取、竈代用、鍋類、筧、屋根)
▲マッチ(焚附、楊枝、玩具材料)
▲箸(木は焚附、竹は釘)
▲薪(消炭、灰、灰汁、肥料、石鹼材料)
▲粉炭(たどん、燃料)
▲米糠(肥料、洗用、漬物用、脚氣藥)
▲ビール瓶(花園の土留用、コルク玩具)
▲團扇(臺所二度使用、骨は豆細工用)
▲屑石鹼(洗濯石鹼)
▲羽毛(蒲團綿代用、楊枝、簪、羽根、羽箒木。帽子飾、矢羽根)
▲下駄(焼料、小箱)
▲筆(刷毛、筆洗、火鉢掃除用 釘飾)
▲古帽子(夏帽子は花籠、入物(上張して)メリケン帽子、子供用靴、海軍帽子、椅子蒲團)
▲藁(紙、繩、たわし、釜敷、苞、草履、草鞋、蓆、俵、綿、疊床、簑、飼畜用、屋根、果物貯藏用、(蒲團材料)
▲ペン先(土瓶敷)
▲洋傘丸骨(魚串、子、煙管通し、ランプ吊)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

皆樣の御手許まで

ありとみさん新女界は何時に參りますの、六時？おそいわねえ三時だつておつしやつたじやありせんか。嘘をおつしやつちや困りますねえと綾子樣から手詰の談判。そこに又あなたの時計は大變だくれてるのねと彈夫君がお出になる。僕が嘘を云つたのではないが、嘘の取次ぎをした罪はあるから、三時は間違いました六時で御座いますと云へば、六時だつて當てになりやしないと頗る不信用。ソコに新女界を滿載した荷車を引いて、二人の大僧さんと小僧さんが、あせをふき／＼やつて來た。

時も時チン／＼／＼と六時をうつ、それ御覧なさい、恰度六時でせう、アヽ今度は本當でしたのね。—新女界がまゐりました、かあ樣新女界がまゐりましたと、彈夫君と綾子樣は奥の方に傳令の役をおつとめになる。

お座敷の大きな机を圍んで、てんでに雜誌を山のやうに積んでおすわりになつた。道子樣綾子樣、奥樣雄二樣、彈夫君、のしさんかつさん、有富の奥さん、若月君、僕、例外はあるが、これがまあ新人社の發送係なのである。そうして先生は箱根の海を富士の山がのぞく樣に時々ヒヨイと頭の上からおのぞきになつて、ウム／＼、ソウカ／＼と何でもかでもおうなづきになるので、お父樣、お尋ね申してるのにソウカ／＼つておつしやるよ、と抗議を申し込むのは綾子樣、有富さん、私五分間に十八包んでよ、あなたもなさつて御覧なさいとお仰るのは道子樣、僕が一生懸命に包んで居ると、時々ソツト其中に入れられて、お加勢をなさる可愛いお方が雄ちやん。それ五分間よ、と綾子樣の御警告に手をやめて數へて見れば、三拾二個、但し此中の四つが雄二樣の分である。

雄二—もうお休み。かあ樣もう一分間—ねえ、かあ樣と又二三分。雄二お休みなさいよお前はね、七時半にやすむと、チヤンと學校に届けてあるのよ。此時そんな事も届ければなりませんのですかと聞く人がある。エヽ／＼何時にねるか、何時におきるか、友達はどうか、兄弟はどうかつて細かに調べて來るんですよと、奥樣がお答へになる。雄ちやんはモウ一つ／＼と分秒を爭ふ。さう／＼七時三十分が來てしまつた。それ雄ちやん、三十分ですよと、私までが催促すれば、もう一つねえ、かあ樣と欲しいものをねだるやうにして一つをしづかに／＼包んでゐらつしやる。かあ樣は、おやすみ、ね、いヽ子だからとおつしやる。雄ちやんは、困つちやつたね、かあ樣が七時三十五分と届けて下さればよかつたのに、と泣きそうにしほれて、見返り／＼ねえまに連れて行かれてしまつた。

雄二樣までが皆樣のためにこうしたわけ。何千何百冊と云ふものヽうち、お可愛い坊ちやんや、孃ちやん方のてしほにかけたものがたんとあります。若しも包みをおさきにもならないで其まヽになさる方が一人でもありましたら、ばちが當りますよ。（せい）

定價

（郵税加算）	内地及朝鮮支那	外國
一部	金拾錢	金拾四錢
六部（半年分）	前金六拾錢	前金八十錢
十二部（一年分）	前金壹圓拾錢	前金壹圓六十錢

廣告料

一行（廿三字詰）	金廿五錢	一頁	金拾圓
四半頁	金三圓	内表紙	金拾貳圓
半頁	金五圓	外表紙	金拾八圓

猶ほ引續き御廣告の向へは特別大割引可仕候

摘要

▲本誌代金は總て前金にて御拂込み被下度候
▲郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候
▲御送金は振替にて拂込るヽ方便利に候但手數料金壹錢御加へ被下度候
▲通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に願上候

明治四十四年二月二十五日印刷
明治四十五年三月　一　日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區丸山町四番地　相原一郎介
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所
發行所　東京市小石川區林町四十三番地　新人社
電話番町二五四四
振替貯金口座一四〇〇五

新案特許
登録済

あづま火のし

一名(エントツヒノシ)

皆様が仕立物をなさいますのに「火のし」は是非共必要なものであります、ですがこれ迄の「火のし」は炭火が直に立消え致しますから度々火を起したり入れ換へたりする手數と時間は並一通りではありません、夫ればかりではなく灰や火の子の飛びまして大切の衣裳を傷けますことは往々あることで折角の御苦心を水の泡にするは申す迄もなく、斯ることは御婦人方の大なる恥辱と存じます。此「あづま火のし」はこれ等の缺點を補はんが爲めに考案致したもので左の如き特長を有つて居りますから恐らく理想的の「火のし」と申ても差支ないことと存じ、皆様にお勧め致します譯であります。

(い)構造は堅牢で體裁は優美なること、
(ろ)取扱輕便にて火の起り易きこと、
(は)時間を要しませぬから經濟なること、
(に)蓋がありますので灰や火の子の飛ぶことなく清潔で安全なること、
(ほ)火のしと火壺との間に空隙がありますから火の加減よくのし物の焦る恐れなきこと、
(へ)炭火は從來の火のしの半量にて充分なること、
(と)他の品よりも割合に價の安きこと、

何卒御實驗の上にて御評判を願ひます、尚此「あづま火のし」は全國有名の金物店にありますから御最寄にて御買求め程を願上ます。

▲定價 大、一圓四十錢 小、一圓二十五錢
▲送料 内地十二錢 市内無料

發賣元 東京市下谷區竹町十二番地(佐竹通)
信濃屋金物店

京染 悉皆商
京都市新町三條上ル
松井宗七
并ニ白生地販賣仕候

玉

京都染元
染見本發行

黒紋附
模様染
新小紋
色染
更紗染

取引簡易

玉德商店
京都市醒ヶ井佛光寺

新人

拾二卷

合本

製本既成發賣　定價金一圓參拾錢（送料共）

社說（海老名主筆）

▲教育勅語と基督教▲現代基督教の二大根據▲國民道德の進化▲國民道德の究境▲朝鮮傳道▲國民道德の根本を發揮せよ▲神社崇敬の疑問▲朝鮮に於ける感想▲朝鮮人の使命▲祖先崇拜か子孫崇拜か▲我國民性の變遷と基督教▲支那の內亂と帝國民の覺醒

教壇（海老名彈正）

▲超人の使命▲信仰と忠君▲弱者の宗教强者の宗教▲現代に對する基督教の使命▲橄欖山上のキリスト▲基督の自覺▲新道德の基礎▲基督の流離▲基督の僕と友▲希望の生活▲自信▲靈能の實證

想苑

▲精神生活の內活　高木壬太郎
▲現代思潮と教育家　加藤直士
▲基督教界の缺陷　中村長之助
▲一元か多元か　富永德磨
▲近時の基督教觀　津荷環山
▲教會大合同論　內ヶ崎作三郎
▲基督株殺論を駁す　額賀鹿之助
▲滯德日記　吉野作造

▲基督教神秘主義の興起　富永德磨
▲基督教會成立の顚末　中村長之助
▲基督教の賜物　安部磯雄
▲基督教と沒我思想　戸田慶治
▲基督教は個人主義か沒我主義か　富永德磨
▲時代先覺の識見　海老澤亮
▲東洋思想と基督教の交涉　赤司繁太郎
▲社會事業の新紀元　鈴木文治
▲東洋意識と基督教　中村長之助
▲基督者の見たる起信論　津荷環山
▲イエスの人格　額賀鹿之助
▲自然主義か理想主義か　鹿子木員信譯
▲天才論　富永德磨
▲基督教の眞髓と宗教哲學　久布白直勝
▲教派合同の史的發達　小平國雄
▲イスカリオテのユダ　森脇白夜
▲予が基督に對する關係の歷史　安部清藏
▲予は佛陀より基督に往けり　小山鼎浦
▲祖先崇拜と基督教　赤星仙太
▲國家主義と個人主義　帆足皆夢
▲實生活に働く信仰の力　內ヶ崎作三郎
▲海野氏の日本人種改造論を讀む　谷津博士
▲聖書講義▲雜俎▲時潮小觀▲文藝小觀
▲時評▲其他

第三卷 新女界 合本

製本既成發賣 定價金壹圓（送料共）

◉社説 （安井哲子）

▲死ぬ迄働き續ける元氣▲無意識の感化▲個人の歴史▲奮鬪と慰安▲他人の喜びに對する同情▲趣味のいろ／＼▲過つて改むるに憚る事勿れ▲懷かしい十年前の夏▲溫情▲勇氣▲犧牲の精神▲心の準備

◉講壇 （海老名彈正）

▲現代婦人の缺陷▲永遠の生命▲恩惠の聲▲柔和の福音▲誤解せられたる基督▲女子の解放▲愛苦の眞義▲神の聖愛▲向上の動機▲基督の家庭▲基督敎の眞髓

◉想苑

▲新らしき生活　谷津博士
▲現代女學生の惡傾向　小此木松子
▲禮義の根本觀念　三谷民子
▲亞米利加だより　海老名一雄
▲かあやん　德富健次郎
▲現代小說雜誌　小山東助
▲湯臺叢話　谷澤直秀
▲獨逸見聞記　吉野作造
▲婦人解放の是非　宮田脩
▲佐久間大尉の手紙　德富健次郎

▲矯風問題　島田三郎
▲女子の敎育の標準　村田勤
▲婦人の活氣　小此木松子
▲伊香保より　野口精子
▲形式道德の無能力　村田勤
▲土耳古の話　小松武治
▲惠み多かりし二夏　三谷民子
▲夏の巴里　藤島武二
▲西班牙の夏　湯淺一郎
▲常樂の生活　二宮貞子
▲子女敎育に對するの母の務　海老名みや子
▲婦人と信仰　海老名彈正
▲「アンドリヤ、デルサト」を讀みて　三谷民子
▲無題錄　小此木まつ子
▲女子の高等敎育論　ジョルダン博士
▲我國女子の將來　成瀨仁藏
▲婦人解放問題　內ヶ崎作三郎
▲男女問題の意義　安部淸藏
▲淨心錄　谷澤直秀
▲世界最大の美　宮川經輝
▲文欄▲家庭▲雜俎▲衞生▲隨感▲其他種々

通俗教育 ● 人道鼓吹

人道講話

入會の手續

一、本會は教育道德宗教に關する講話を直接又は通信に依つて聞かんとする者を以て組織す。

一、本會は村上專精先生を會長とす。

一、本會は何人をも選ばず入會を許す。

一、本會は其目的を達せんがために每月雜誌「人道講話」を發行す。

一、本會々員には每日「人道講話」を無代配賦す。

一、本會々費一ヶ年金七十二錢、必ず前金にて入會申込むべきものとす。

發行所 東京小石川區丸山町 振替東京二〇三二二四 人道講話會

救世軍大佐 山室軍平著

改訂四版

實行的基督教

○定價金廿五錢 ○郵稅金四錢

本書の價値

開拓者　著者は其實行的なるが故に世に重んぜらるゝの人所謂活きたる宗教を說く上に於て他に比類なかるべし、平民之福音が幾多の求道者信者を起たしめたるが如く此書も働きて世の人々を救ふ栞と成る事疑ひなしと信ず

婦女新聞　本書は之を最終まで通讀すれば大抵の人はクリスチャンに成て了ふだらう、實に面白く說いたものだ

讀賣新聞　情熱があるのと譬喩の巧妙なのと酸いも甘いも知り拔た苦勞人と云つた風の個所が滿遍なく現はれて居るのが本書の特色であらう

東京銀座二丁目

救世軍本營

振替四四〇〇番

入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

（電本）八八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋南

東洋內科醫院

院長　醫學士　高田畊安

相州高座郡茅ケ崎町海濱從停車場半里

南湖院

電話ちがさき二番

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

但　院長渡歐中　副長代理す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可
明治四十五年三月一日發行

東京市小石川區林町四拾三番地
新人社
貯金口座東京一四〇〇五

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN